

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	美術館普及課
課長名	中尾

事業名	わくわくアート・ミュージアム				施策番号	
					I - 1 - (2) - ⑤	
事業概要	子どもたちの感動する心や豊かな情操を養うため、現在及び将来にわたって美術館を積極的に活用し、美術に親しむ態度を育てます。 小・中学校の学習指導要領に美術館を活用した授業の実施が明記されたことを受け、美術館の重要な役割の一つとしての教育・普及活動の内、学校の美術教育活動を支援します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.02人
	4,273 千円	3,605 千円			4,480 千円	係長 0.05人 職員 0.50人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 美術館が教育機関及び保護者との連携を強化し、子どもたちの美術に親しむ態度を育てるための様々な取り組みを行い、将来の地域文化の担い手を育みます。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「わくわくアートミュージアム事業」の参加者数	5,397 人	9,000 人	15,816 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	美術鑑賞教室や館内授業、たんけんパスポート利用者など、「わくわくアートミュージアム事業」全体の参加者数を成果指標とします。 (最終目標と目標年度) 13,300人 平成26年度			175.7 %		
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

活動計画	小中学校及び保護者と連携して、美術鑑賞教室や子ども向けワークショップ(チャレンジアートミュージアム・サマーアートスクール)などを実施します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	美術鑑賞教室の実施回数	37 回	40 回	48 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	小中学校と連携した学習プログラムの充実・強化を図ります。			120.0 %		
	子ども向けワークショップの実施回数	8 回	10 回	11 回		順調
「チャレンジアートミュージアム」を展覧会に合わせて開催するほか、夏休みには「サマーアートスクール」を実施します。	110.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	小学生を対象とする美術鑑賞教室、館内授業など、学校との連携事業は年々定着してきており、美術鑑賞教室については目標回数を大きく上回るとともに、「たんけんパスポート」の利用者も目標人数を大幅に上回りました。美術鑑賞教室の開催時期に、パスポートの積極的な活用を各小中学校に働きかけた成果と考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	美術鑑賞教室の解説に美術館ボランティアを起用するほか、各種ワークショップでは、美術館サポーターを参画させてマンパワーを充実させています。また、「たんけんパスポート」の利用促進については、小中学校と連携しながら保護者向けのPRの強化を目指しています。以上、美術館の持つ、学芸員の専門性を生かしながら市民参画や学校との連携を強化し、経済性と効率性を意識しながら事業を実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	博物館普及課
課長名	栗原

事業名	博物館セカンドスクール事業				施策番号	
					I - 1 - (2) - ⑤	
事業概要	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものです。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	2,276 千円	2,285 千円			16,075 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	博物館を第二の学校(教室)としてとらえ、子供たちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、(1)博物館への誘致事業、(2)学校教育支援事業、(3)家庭教育支援事業、の3つの柱をかけた、学校教育現場と博物館の結びつきを強めます。			成果実績	リニューアルに伴う臨時休館(12月3日～3月22日)により、学校団体誘致数の減を想定していましたが、誘致活動の効果もあり、目標を達成しました。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	学校団体誘致数	1,145 団体	1,000 団体	1,116 団体	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	博物館を訪れる学校団体を増やすため、誘致活動を行い、来館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度)1,000団体 平成25年度			111.6 %			
	学校関係入館者数	74,210 人	70,000 人	78,290 人	大変順調 遅れ	大変順調	
修学旅行、社会見学等、総合的な学習の時間などとして、学校関係者の博物館利用の促進を図ります。 (最終目標と目標年度)70,000人 平成25年度	111.8 %						

活動計画	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間としての博物館利用の促進を図るため、来館状況の分析に基づく誘致活動を行います。特に、県内の来館実績の少ない地域へのPR活動の強化を図ります。	活動実績	県内の来館実績が少ない地域での誘致活動を展開し、学校関係入館者数の増を図ることができました。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	誘致活動延べ日数	11 日	10 日	12 日	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間などとして、博物館を利用してもらえるよう、旅行会社等に対する誘致活動を実施します。			120.0 %			
					やや遅れ 遅れ	大変順調	
			%				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況については、各教育委員会等との連携を図りながら、校長会等での説明会を行い、セカンドスクール事業への理解を得ることができたことにより入館者数の増加につながったことから大変順調としました。 成果の状況については、リニューアルに伴う休館(約4ヶ月)があったにもかかわらず、目標を達成したことから、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	来館状況の分析に基づく誘致活動計画を作成し、関係先教育委員会や旅行会社への誘致活動を絞り込み、効率性を高めるよう努めました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文学館
課長名	米満

事業名	夏休み子ども文学館開催事業				施策番号	
					I - 1 - (2) - ⑤	
事業概要	夏休み期間を利用して子どもを対象とした企画展、イベント、作品募集などを開催し、文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的とします。				事業手法 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.10人 係長 0.10人 職員 0.10人
事業費	6,955 千円	4,295 千円		2,900 千円		

【Plan】計画 →

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	夏休み期間を利用して子どもを対象とした企画展、イベント、作品募集などを開催し、文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的とします。子どもたちに魅力のある企画展の開催と、PR活動の工夫を行い、利用客の増加を図ります。			【Do】実施 →	【Check】評価
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	夏休み企画展 入館者数	3,760 人	5,000 人	6,273 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的として行っている企画展のため、その入館者数を成果としました。 (最終目標と目標年度) 毎年度5,000人以上の入館者数 平成25年度			125.5 %		
	あなたにあいたくて生まれてきた詩コンクール作品応募数	1,025 点	1,000 点	995 点		
子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的として行っている詩のコンクールのため、その応募数を成果としました。 (最終目標と目標年度) 毎年度1,000人以上の応募者数 平成25年度	99.5 %					

活動計画	平成24年度は、「五味太郎作品展【絵本の時間】」を開催し、親子で楽しめる企画展を実施します。第3回目となる、「あなたにあいたくて生まれてきた詩コンクール」では、近隣市町村へも広報を行い、応募者数増加を目指します。	活動実績	夏休み企画展「五味太郎作品展【絵本の時間】」を開催し、親子での入場者が大幅に増えました。
------	--	------	--

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	夏休み企画展 関連イベント開催回数	6 回	3 回	7 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	企画展をさらに楽しむとともに、来館者を増やすため、関連イベント(講演会等)の開催件数を活動指標としました。			233.3 %		
	詩コンクールの広報	広報活動実施	%	%		
詩コンクールの応募者増、市外からの応募者増を図るため、積極的な広報活動を行います。						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」の来館者は、前年度から大幅に増え、目標を大きく上回りました。また、「詩のコンクール」応募者数は、ほぼ横ばいで推移しましたが、市外からの応募もあり、また岩手県からの応募作品が最優秀賞を受賞するなど、着実に認知されています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	子どもたちの関心、興味を引く展示・企画を行うために、毎年異なる企画を実施しています。そのため、年度によって開催経費が増減しますが、より無駄な支出を抑え、子どもたちがより興味を持つ展覧会を実施できるよう内容を検討しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業				施策番号	
					I - 3 - (2) - ②	
事業概要	NPO・ボランティア活動等の市民活動促進のため、市民活動サポートセンターを中心に、市民活動等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業や団体間のネットワークづくりなどの支援を行っています。また、NPO法人の設立の認証や認定事務などを行っています。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30人
	15,495 千円	18,055 千円			19,200 千円	係長 0.60人 職員 1.30人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	NPO法人数(累計)	293 法人	310 法人	305 法人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			98.4 %			
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	20,428 人	20,700 人	21,309 人	やや遅れ 遅れ	順調	
これから市民活動に携わりたい市民への情報提供や相談受付を行うとともに、市民活動に取り組む団体の情報交換や交流を支援する市民活動サポートセンターの利用者数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度21,000人	102.9 %						

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、ニーズに即した各種支援策を実施します。NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人設立の認証や認定事務、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業開催、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。			活動実績	活動の状況は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	講座実施数	3 講座	5 講座	6 講座	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	これから市民活動に携わりたい市民への啓発や、市民活動に取り組む団体の組織や活動を強化するための講座を開催します。			120.0 %		
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	やや遅れ 遅れ	順調
市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	NPO法人数は概ね目標を達成すると共に、市民活動サポートセンター利用者数は目標を達成できたので、順調と判断しました。このことから、活動は有効であると判断します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関窓口の一部として運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	消費生活センター
課長名	愛甲

事業名	消費者啓発推進事業				施策番号	
					II - 1 - (1) - ②	
事業概要	消費者に対する啓発活動を推進するとともに、消費者が自主性を持って健全な消費生活を営むことができるよう支援します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	3,094 千円	2,636 千円			8,760 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	悪質商法による被害や多重債務問題を減少させるため、被害事例や予防策等を市民に周知するとともに、消費者被害が発生した場合、被害を拡大させないための迅速な啓発をおこないます。また、高齢者の被害が増加している現状を踏まえ、相談やトラブル解決のための窓口の市民認知度を向上させるPR活動をおこないます。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	消費生活センターの認知度			90 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	消費者トラブル、多重債務問題及び悪質商法被害等の未然防止と拡大防止のため、消費者啓発施策の推進により、相談窓口である消費生活センターの認知度90パーセント以上を維持します。 (最終目標と目標年度)平成25年度まで90%以上を維持	92 %	90 %	99.8 %			やや遅れ	
	消費者トラブルを解決した市民の割合			74 %	遅れ	順調		
実際に消費者トラブルや多重債務問題に遭遇した人の内、解決に至った市民の割合を増やします。 (最終目標と目標年度)前年を上回る程度	68 %	前年を上回る程度	%					

活動計画	出前講座などの啓発事業を行うとともに、消費者学級、消費生活モニター活動の強化、中学生を中心とした若年層への啓発強化にも取り組みます。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	市民への啓発活動の年間実施回数			78 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	最新の悪質商法の事例や予防策などについて、講座や様々な媒体を用いて啓発活動に努めます。	113 回	78 回	100.0 %			やや遅れ	
				%	遅れ	順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民への啓発活動は予定通り実施し、消費生活センターの認知度は目標数値に近い割合となりました。また、さまざまな啓発活動により、消費者トラブルを解決した市民の割合も、前年度を上回る結果となっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	啓発講座の実施において、外部講師を呼ばずに既存の相談員を起用することで、新たな経費をかけないようにしています。また、国・県等が作成したチラシ、リーフレットを積極的に活用することで、印刷経費をかけないようにしています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	消費生活センター
課長名	愛甲

事業名	消費者トラブル法律無料相談				施策番号	
					II - 1 - (1) - ②	
事業概要	消費生活相談の処理にあたっては、法律家の知見が必要なものがあるため、弁護士、司法書士による法律無料相談を定期的に行い、消費者トラブルを抱えた市民が相談できる機会を提供します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.01人
	2,807 千円	788 千円			690 千円	係長 0.02人 職員 0.05人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	多重債務問題をはじめ、複雑・多様化する消費者問題に対応するため、法律専門家の協力を得て、消費者がかかえているトラブルの解決策を探ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消費者トラブルを解決した市民の割合	68 %	前年を上回る程度	74 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	実際に消費者トラブルや多重債務問題に遭遇した人の内、解決に至った市民の割合を増やします。 (最終目標と目標年度)前年を上回る程度			%		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	弁護士又は司法書士による「消費者トラブル法律無料相談」を週2回消費生活センターで実施します。利用者の利便性を考え、毎月第2週は火曜日の代わりに、その週の土曜日に実施します。また、年1回夜間に実施します。	活動実績	弁護士相談 : 51回 司法書士相談 : 50回 夜間相談 : 1回			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消費者トラブル法律無料相談会の実施回数	99 回	102 回	102 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	消費者に法律相談を利用する機会を定期的提供します。			100.0 %		
				%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	消費者トラブル法律無料相談会を週2回開催することで、希望者はリアルタイムで法律の専門家のアドバイスを受けることができる体制が整い、消費者トラブルを解決した市民の割合も、前年度を上回る結果となっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	悪質化・多様化する消費者トラブルを解決するためには、法律の専門家のアドバイスが必要であることから、相談者が法律無料相談会を利用できないことがないよう、実態に合った事業を展開します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心推進課
課長名	福本

事業名	地域防犯対策事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ①	
事業概要	本市の犯罪発生件数は、減少傾向にあるとはいえ、体感治安の十分な改善には至っておらず、防犯意識の高揚や自主的な防犯活動への取り組みが強く求められています。このため「生活安全パトロール隊活動促進事業、活動啓発事業」や「市民防犯大会の開催」などにより、地域住民の自主防犯活動の促進や、市民の防犯意識の醸成により「安全・安心なまち北九州市」の実現を図ります。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20人
	35,556 千円	32,367 千円			17,550 千円	係長 0.40人 職員 1.50人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 犯罪被害の防止には、市民の防犯意識の高揚や自主的な防犯活動への取り組みが重要です。本事業では、地域の自主防犯団体「生活安全パトロール隊」に対し人的・物的支援を行い、活動の活発化を図るとともに、市民防犯大会の開催や市民への防犯情報の提供などにより、市民が安全で安心して暮らすことのできる「安全・安心なまち北九州市」の実現を目指します。			成果実績	成果の状況は下記の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	刑法犯認知件数	14,043件 (1,252件減)	件数減 (前年比較)	12,409件 (1,634件減)	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度					
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %	80 %	76 %	やや遅れ 遅れ	順調
市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)						

活動計画	安全で安心なまちを実現するためには、市民による自主的な防犯活動の取り組みが重要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの活動を促進します。			活動実績	下記の活動指標通りです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	生活安全パトロール隊による年間パトロール実施回数	194 回	100 以上	211 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動実施の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均実施回数です。					
	生活安全パトロール隊による年間パトロール参加人数	1,576 人	1,000 人	1,706 人	やや遅れ 遅れ	大変順調
各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動参加者の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均参加人数です。						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	町内の防犯パトロールや子どもの登下校時の見守りを毎日(平日)実施する地域があるなど、平均して、1校区につき年間約211回、1706人の参加があり、活動計画を大きく上回りました。こうした地域の自主的な防犯活動は犯罪発生を抑制するとともに、地域住民の体感治安の向上につながります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	生活安全パトロール隊の活動はすべてボランティアによるもので、この事業では活動に対する人的支援(指導員による助言等)と物的支援(腕章、帽子などの支給)を実施しています。支援物品については、毎年、品目や購入数量を見直すなど、効果的かつ効率的な支援を心掛けています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	防犯灯設置補助事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ①	
事業概要	LED防犯灯の設置促進を図るため、防犯灯を設置する自治会、町内会の属する連合会及び未加入団体に対して費用の一部を助成します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10人
	142,096 千円	144,357 千円			5,400 千円	係長 0.20人 職員 0.30人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため、地域が設置する防犯灯の一部を補助することで、防犯灯の設置促進を図り、市民が安全で安心して暮らすことのできる明るく安全・安心なまちの実現を目指します。			成果実績	成果の状況は下記の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	刑法犯認知件数	14,043件 (1,252件減)	件数減 (前年比較)	12,409件 (1,634件減)	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度					
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %	80 %	76 %	やや遅れ 遅れ	順調
市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)						

活動計画	地域が設置する防犯灯については、町内会等の属する連合会及びまちづくり協議会、未加入団体に対し、設置費の一部を補助し、現灯数を維持します。平成23年度からは、10年間を目途にLED照明への転換を図ります。LED化により維持管理経費が減少するため、町内会等の負担が軽減されます。また、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性が向上します。			活動実績	下記の活動指標通りです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	自治会等設置防犯灯の管理灯数	53,410 灯	現状維持	53,359 灯	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	自治会等が設置している防犯灯数(約53,400灯)について、補助制度を継続し、現灯数を維持します。					
	自治会等設置防犯灯のLED化灯数	5,309 灯	5,300 灯	7,348 灯	やや遅れ 遅れ	順調
毎年度、全灯数の約1割をLED化します。						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	防犯灯について、現灯数が維持され、LED化については計画以上に進捗が図られています。また、犯罪発生件数も減少するなど、成果の状況、活動状況、いずれも順調に進んでいます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	LED化が進むことで維持管理経費(電気代、球替え等)が大幅に減少することから、経済性・効率性の向上に寄与する事業です。引き続き、防犯灯のLED化を促進します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	防犯灯設置事業				施策番号		
					II - 1 - (3) - ①		
事業概要	夜間における犯罪の発生を防止し、公衆の通行の安全を図るため、LED防犯灯を設置し、安心して生活できるまちづくりを推進します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	24年度執行額 44,161 千円	25年度当初予算額 46,413 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 5,400 千円	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を) どのような状態にしたいのか 夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため、地域で設置できない場所などに市が防犯灯を設置し、市民が安全で安心して暮らすことのできる明るく安全・安心なまちの実現を目指します。			成果実績	成果の状況は下記の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	刑法犯認知件数	14,043件 (1,252件減)	件数減 (前年比較)	12,409件 (1,634件減)	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度					
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %	80 %	76 %	やや遅れ	順調
市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)			95.0 %	遅れ		

活動計画	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため、周囲に人家がないなど、自治会等で設置することが困難な場所に対して、市が防犯灯を設置します。平成23年度からは、10年間を目途にLED照明への転換を図ります。LED灯は、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性が向上します。			活動実績	下記の活動指標通りです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	本市設置防犯灯の管理灯数	14,631 灯	現状維持	14,583 灯	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本市が設置している防犯灯数(約14,600灯)について、効率的な配置のもと、現灯数を維持します。			99.7 %		
	本市設置防犯灯のLED化灯数	1,622 灯	1,500 灯	1,533 灯	やや遅れ	順調
毎年度、全灯数の約1割をLED化します。			102.2 %	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	防犯灯について、現灯数が維持され、LED化については計画どおりに進めています。また、犯罪発生件数も減少するなど、成果の状況、活動状況、いずれも順調に進んでいます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	LED化が進むことで維持管理経費(電気代、球替え等)が大幅に減少することから、経済性・効率性の向上に寄与する事業です。引き続き、防犯灯のLED化を促進します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	交通安全センター管理運営業務				施策番号	
					II - 1 - (3) - ①	
事業概要	市立交通安全センターを管理するとともに、交通公園内外における各種交通安全教室を開催します。 指定管理期間 平成21年度～平成25年度 指定管理者 NPO法人タウンモービルネットワーク北九州				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	全額委託料		人件費
	27,350 千円	27,351 千円			3,650 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故事故件数自体の減少に取り組むことにより、安全で安心なまちを目指します。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年実績	24年目標	24年実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	9,137 件	件数減 (前年比較)	186 件減 ※8,951件	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	(最終目標と目標年度) 8,000件以下(平成27年)			%			
	交通事故死亡者数(警察統計のため暦年でカウント)	28 人	人数減 (前年比較)	5 人減 ※23人	やや遅れ 遅れ	順調	
(最終目標と目標年度) 22人以下(平成27年)	%						

活動計画	今年度も、学校へ積極的に働きかけを行い、交通安全教室の開催数の増加に取り組んでいきます。また、子どもたちが「自転車運転免許証」を持ちたいという気持ちになるように制度の充実を図っていきます。			活動実績	下記の活動のほかに、主に小学生高学年を対象に、講習受講者に対し「自転車運転免許証」を交付しています。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	交通公園入場者数	184,682 人	180,000 人	198,395 人	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	交通公園の入場者を増加させることで、自転車をはじめとした交通ルールの周知、遵守やマナーの改善を図ります。			110.2 %			
	安全教室の開催数	546 回	550 回	628 回	やや遅れ 遅れ	大変順調	
警察等と連携して、交通公園や小学校等での交通安全教室を開催します。	114.2 %						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	交通公園は屋外利用施設であるため、入場者数は天候に左右されます。また、休日の利用が主ですが、休日における施設の収容人員はほぼ上限まできており、安全確保の面から、大幅に入場者数を増やすことは難しくなっています。そのため、安全教室などの内容を充実させることで、交通安全思想の普及を一層図ることとしています。 全国的に自転車の安全利用が課題となっている中、「交通公園」を設置している自治体は少ないことから、有効な取り組みと判断しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	平成18年度より指定管理者制度を導入し、経費の削減を図りました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	交通安全推進事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ①	
事業概要	第8次交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施します。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図ります。				事業手法 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額 8,377 千円	25年度当初予算額 6,193 千円	(事業費備考)		目金の金額 9,800 千円

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故事故件数自体の減少に取り組むことにより、安全で安心なまちを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下(平成27年)	9,137 件	件数減(前年比較)	186 件減 ※8,951件	%	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	交通事故死亡者数(警察統計のため暦年でカウント)	28 人	件数減(前年比較)	5 人減 ※23人	%	やや遅れ 遅れ	
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故死亡者数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 22人以下(平成27年)			#VALUE!	%		順調

活動計画	平成23年度中に策定した第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「自転車の安全確保」、「高齢者の安全確保」、「飲酒運転の撲滅」に取り組めます。特に、本市は環境活動に積極的に取り組んでいることから、自転車ルール・マナーの向上に取り組んでいきます。	活動実績	下記の活動のほか、 ・新小学校1年生に、黄色い帽子の配布 ・高齢者に、調剤薬局での啓発物の配布などを行ないました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 高齢者に対する交通安全教室開催数	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	高齢者の交通事故を防止するため、老人クラブ等と連携し、高齢者が参加するイベント等で巡回交通安全教室を実施します。	494 回	500 回	478 回 95.6 %		大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	小学校での交通安全教室開催数	210 回	220 回	226 回 102.7 %		やや遅れ 遅れ	
	学校や地域と連携し、歩行者としての知識や自転車のルールなどを習得するための交通安全教室を実施します。						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	交通事故発生件数は、過去最悪であった平成15年以降、若干の上下をしながら傾向的には減少傾向にあります。死者数は、平成16年以降、毎年減少しています。交通事故は一朝一夕ではなくならないことから、これまでと同様に、市、警察や関係団体、地域が一体となって、交通安全運動に取り組んでいく必要があると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ポスターやチラシなどは県が作成したものを購入することで、経費の軽減を図っています。また、啓発物品については各区分を市で一括購入することで単価を引き下げています。引き続き、経済性・効率性の検討を進めていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心推進課
課長名	福本

事業名	暴力追放啓発推進事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ②	
事業概要	事業者・市民の暴排意識の高揚と暴力団排除の重要性についての認識を高めるため「研修開催等の啓発事業」、「市民暴排の日記念行事開催」、「暴力追放強調月間による集中的な広報啓発」などにより官民一体となった暴力追放運動の推進を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 暴力追放市民支援事業と一本化したため、予算増となりました。		人員費
	5,481 千円	12,498 千円		5,800 千円	課長 0.20人 係長 0.20人 職員 0.20人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市から暴力団をなくすため、暴力追放市民大会や研修会等の実施により、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図ります。	成果実績	当事業の成果の検証は「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	暴追対策に対する市民の評価	45 %	対前年度増	52 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態			%		
	(最終目標と目標年度)	%				

活動計画	暴力追放意識の高揚を図るため、暴追大会や研修会等を開催し、啓発活動の推進を図ります。また8月を暴力追放啓発強調月間と位置づけ、暴力追放広報啓発を集中して実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	暴追大会や研修会等の実施開催	25 回	12 回	35 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	暴追大会、研修会・出前講演等の開催により、暴力追放啓発活動を推進し、暴力追放意識の高揚を図ります。			291.7 %		
		%				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	暴追意識の高揚と暴排気運の醸成を図ることを目的に、全体的な規模の暴追大会を開催し、約2,000人の参加が得られました。併せて、出前講演等研修会を34回(前年度22回)開催し、2,420人の参加者が得られました。また、8月の暴力追放啓発強調月間において、様々な広報媒体により啓発が行われるなど、事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	県及び市暴力団排除条例を基に、市民・事業者・県警察と一丸となって、暴排活動を推進しています。その結果、暴排機運の高揚により各業界団体からの出前講演依頼や暴追大会参加者数の継続的な維持につながっています。行政単独の活動では、経済性・効率性の向上は図られなかったと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心相談センター
課長名	岩永

事業名	民事暴力相談センター運営事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ②	
事業概要	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談や暴力追放拠点施設である堺町安全・安心センターの管理運営を実施します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
事業費	16,423 千円	26,834 千円		5,800 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図ります。		成果実績	当事業の成果の検証は、「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	暴追対策に対する市民の評価	45 %	対前年度増	52 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、依然と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が感じられる状態			%		
	小倉都心部の繁華街の犯罪発生件数	276 件	対前年度減	234 件	やや遅れ	順調
小倉都心部の繁華街での犯罪発生件数の減少を図ります。 (最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が感じられる状態	%					

活動計画	堺町安全・安心センターの管理運営を行うとともに、常駐の専門の相談員による民事介入暴力相談を実施し、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図ります。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	民事介入暴力相談の実施	230 件	適切な相談の実施	207 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	専門の相談員により、適切な相談を実施し、問題解決を図ります。			%		
					やや遅れ	順調
			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	3名の常駐の専門の相談員が民事介入暴力相談を受け、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図りました。また、暴力追放の拠点施設である堺町安全・安心センターの管理運営を行い、小倉都心部にある繁華街の犯罪発生件数も前年度と比べ減少していますので順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	民事介入暴力の相談員には警察OBを活用するなど専門性を発揮し、行政単独の活動では、経済性・効率性の向上は図られなかったと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心推進課
課長名	福本

事業名	暴力追放運動推進補助事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ②	
事業概要	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、暴排を目的とした活動機関である「北九州市暴力追放推進協議会」や「(公財)福岡県暴力追放運動推進センター」に対する助成などを通じて、その活動支援を図ります。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	
	3,606 千円	6,975 千円			課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.15人	(人件費備考)

【Plan】計画 →

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市から暴力団をなくすため、暴力団排除に取り組む各機関と連携して社会全体で暴力団排除を推進するための環境づくり。			成果実績	当事業の成果の検証は、「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	暴追対策に対する市民の評価	45 %	対前年度増	52 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態			%			
	(最終目標と目標年度)	%	順調				

活動計画	暴力追放運動を推進している北九州市暴力追放推進会議をはじめ、(公財)福岡県暴力追放運動推進センターや各区及び市民団体等の活動に対し支援を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	暴力追放運動推進支援団体数	9 団体	9 団体	9 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	暴力追放運動推進団体へ補助金等の支援を行います。 支援団体数を指標とします。			100.0 %			
	(最終目標と目標年度)	%	順調				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	暴追意識の高揚と暴排気運の醸成を図ることを目的に、暴力追放推進団体に対して補助金等を交付し支援を行いました。事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	全体的な暴追大会に加えて各区暴追運動に対し補助を行うことで、地域における取り組みを活性化し、市全体の暴追の意識を高めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局			
		担当課	安全・安心推進課			
		課長名	福本			
事業名	暴力追放市民支援事業			施策番号	II - 1 - (3) - ②	
				事業概要	暴力団排除に関する本市の責務として「暴追相談窓口一覧等事業所向け啓発用品配布」、「青少年向けリーフレット作成」、「携帯型非常通報装置貸与」などに、暴力団から危害を加えられる恐れのある市民等の安全対策の実施や暴排教育の推進を図ります。 ■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()	
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) H25は暴力追放啓発推進事業に統合	人件費	目安の金額	課長 0.20人
	12,382 千円	0 千円			5,800 千円	係長 0.20人 職員 0.20人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	事業者等が安心して暴追活動が実施できるよう、警察等関係機関と連携しながら安全対策を進めます。また、子供達が暴力団に加入せず、かつその被害に合わないための環境を作りまします。			成果実績	当事業の成果の検証は「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	暴追対策に対する市民の評価	45 %	対前年度増	52 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態			%			順調
	(最終目標と目標年度)	%					

活動計画	市暴力団排除条例に定める市民・事業者に対する情報提供(広報・啓発)及び県警察と連携し、危害を加えられるおそれのある市民に対する安全対策を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民・事業者に対する支援	継続的実施	市民等に対する広報・啓発・安全対策の支援の実施	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民・事業者に対する暴追に関する情報提供の実施や暴力団から市民等を守るための安全対策上の支援を行います。			%		
	(最終目標と目標年度)	%				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	暴力団から危害を加えられるおそれのある市民等への県警察と連携した安全対策や青少年向けリーフレット配布等を実施しました。今後も継続して取り組む必要がありますが、事業が予定どおり進んでいるため順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	暴追啓発強調月間(8月)で作成したCMを通年で活用することにより、低コストでより市民に民事暴力相談センターの周知を図りました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	防犯カメラ設置事業				施策番号	
					II - 1 - (3) - ②	
事業概要	暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、繁華街等、人の集まる場所に防犯カメラを設置するものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	213,798 千円	39,000 千円			8,175 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内主要幹線道路および繁華街など人の集まる場所に防犯カメラを設置することにより、犯罪の起きにくい安全・安心なまちづくりを推進するとともに、重大犯罪等の抑止を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	繁華街における犯罪発生件数	—	—	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	小倉北区繁華街では小倉中央小学校区、八幡西区の繁華街では黒崎中央小学校区の犯罪発生件数の減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度						
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 件減	80 %	76 %	やや遅れ 遅れ	順調	
市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)			95.0 %				

活動計画	市内主要幹線道路および小倉北区堺町・鍛冶町・紺屋町地区等、八幡西区黒崎・熊手地区の繁華街に防犯カメラを設置します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	防犯カメラの設置	—	158 台	158 台	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	平成25年3月末までに、主要幹線道路78台、繁華街80台の防犯カメラを設置します。			100.0 %			
					#DIV/0! %	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	街頭犯罪等を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、防犯カメラを目標期日(平成25年3月末)までに計画どおり設置することができました。(主要幹線道路: 78台、小倉北区繁華街: 52台、八幡西区繁華街: 28台)
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	経済的・効率的に防犯カメラを設置するため、福岡県の防犯カメラ設置事業補助金を活用するとともに、警察や地元住民等との綿密に協議を行い、最適な配置及び設置数を決定し、カメラを設置しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	戦時資料展示コーナー管理運営事業			施策番号		
				II - 3 - (4) - ①		
事業概要	本事業は、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管、展示することにより、戦争がもたらした戦禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただくものです。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額		(事業費備考)	目安の金額
1,499 千円		1,650 千円		1,220 千円	係長 0.05 人 職員 0.05 人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	このコーナーの目的は、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、風化しつつある戦争がもたらした戦禍と平和の尊さを多くの市民にご理解いただき、二度と同じ過ちを繰り返さないよう次の世代に伝えていくことです。			成果実績	昨年のような民間のイベントがなく、一度に多数の集客がなかったにも関わらず、順調に見学者があり、目標を上回ることができました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	戦時資料展示コーナー見学者数	4,208 人	3,800 人	3,912 人			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	戦争の惨禍と平和への尊さに直接触れることができる機会を示す指標となるため、成果指標と設定しました。最終目標は平成18年度から21年度の平均の伸び率に平成21年度の子どもの入場者数を倍増させて設定しました。 (最終目標と目標年度)4,000人(25年度)			102.9 %				
(最終目標と目標年度)				%		順調		

活動計画	今年度はこれまでと同様に、夏休みの機会を利用して、戦争の悲惨さや平和の尊さを学んでもらえるよう、市内の全小学校6年生児童に戦時資料展示コーナーの案内チラシを配布します。また、あわせて区役所や市民センターを通じたチラシの配布を行うとともに、新たにチラシ配布の協力依頼をするなど、広報に努めます。	活動実績	昨年度に加え、新たに(社)北九州市観光協会とJR西小倉駅にチラシの設置を依頼しました。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	市民への広報活動件数	箇所・校	箇所・校	284 箇所・校			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	見学者の増加に向けて、小中学校や区役所、市民センターに案内チラシを配布するなど、あらゆる機会を捉えて広報活動を実施します。	281	280	101.4 %				
				%		順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	今年度は民間企業が行ったウォーキングコースに戦時資料展示コーナーが組み込まれなかったため、昨年度のように見学者の大幅な伸びはありませんでしたが、例年のチラシ配布に加え、新たに市内の観光案内所やJR西小倉駅にチラシを置かせていただくなど、観光客や市民の方に周知することにより、見学者も目標を上回ることができたので、成果は順調であると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	戦時資料展示コーナーが開設されている埋蔵文化財センターの管理運営は、松本清張記念館や文学館など他の施設と一括して委託しているため、コスト削減の余地は少ないと考えます。 広報活動に関しては、今後も民間企業のイベント等の活用や、観光客への周知など効果的な広報を実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	落書き消去活動支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (1) - ④	
事業概要	「割れ窓理論」によると、落書きを放置しておくことと犯罪発生の発端となるとされています。そこで、JR駅周辺や商店街、公園等の公共の場所の落書き消しに取り組む地域団体、企業、学校、NPO等に対し、落書き消しの溶剤や用具等の提供を行い、落書き消しの取り組みを支援します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)	
	コスト	24年度執行額 26 千円	25年度当初予算額 250 千円	(事業費備考) 平成25年度は重点B「(新)地域住民による迷惑行為防止の推進事業」の一部		人件費

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「落書き」は、まちの景観を損なうとともに、放置すれば犯罪の発生を誘発する恐れがあります。地域団体、企業、学校、NPO等に溶剤・用具等の提供を行い、落書き消去活動を支援することにより、安全安心で快適なまちづくりにつなげます。		成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	落書き消去活動への参加人数	60 人	50 人	25 人	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域住民が積極的に落書き消去活動に取り組むことにより、まちの景観の回復だけでなく、地域のモラル・マナーの向上につながるため、活動の参加人数を指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 延べ参加人数250名			50.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ	やや遅れ
				遅れ		

活動計画	地域団体、企業、商店街、学校、NPO等に、落書き消しの溶剤や用具等の提供を行い、地域における落書き消去活動を支援します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	落書き消去活動支援制度の周知・広報	-	地域団体へのチラシ配布数 375 枚	506 枚	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域住民等が自主的に落書き消去活動に取り組むことにより、まちの景観の回復や地域におけるモラル・マナーの向上につながるため、本制度の活用についての周知、広報を指標としました。			134.9 %		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ	順調
				遅れ		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>今年度は、市内の全自治会、市民センター、地域団体等に対して制度の周知を行いました。例年に比べ、地域からの落書き消去活動の申し出が少なく、目標とした人数を上回ることが出来ませんでした。この事業は落書き消去活動を支援するための事業であり、消去活動を見かけた住民のモラル・マナーアップを促す必要な取り組みであるため、活動団体が増えていけるよう検討を行います。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>地域住民等による自主的な落書き消去活動(ボランティア)に対する支援を行っているものであり、経済性、効率性の視点からも有益であると考えています。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	26年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	モラル・マナーアップ関連条例推進事業			施策番号	
				Ⅲ - 1 - (1) - ④	
事業概要	4つの迷惑行為を無くすために人が多く集まる中心市街地や観光拠点である小倉・黒崎地区を迷惑行為防止重点地区に指定し、過料の適用を実施しています。また、条例周知のための広報や路面表示等の環境整備等を実施しています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	40,764 千円	42,483 千円			課長 0.10人 係長 0.50人 職員 0.40人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	迷惑行為の発生を防止するため、重点地区において4つの迷惑行為を行った者に対して過料の適用を行い、モラル・マナーの向上を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	モラル・マナーアップ関連条例に基づく過料適用件数の削減(小倉都心地区、黒崎副都心地区)	小倉 30.8 % 黒崎 10.5 %	単年度の目標設定はありません	小倉 48.7 % 黒崎 57.9 %	大変順調 順調 やや遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	条例に基づく過料適用と周知のための広報活動が進むことにより、条例違反者の減少が予測されるため、過料適用件数(1日平均)を過料適用開始時から小倉20%、黒崎10%削減を目標として取り組むこととしました。						
	(最終目標と目標年度) 平成25年度 小倉都心地区20%削減、黒崎副都心地区10%削減						大変順調

活動計画	重点地区(小倉、黒崎地区)において巡視活動を実施するとともに、路面標示等の環境整備の充実や市政だより等の広報媒体の活用により、条例や重点地区についての広報・啓発を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	迷惑行為防止重点地区での巡視・啓発回数	月18回	月平均15日以上	月平均16日 106.7%	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	重点地区での迷惑行為を防止するために、巡視員による定期的な巡視・啓発活動に取り組めます。					
	迷惑行為防止重点地区の取り組みに関する広域的な広報・啓発活動回数	55回	36回	60回 106.7%	やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	重点地区内での巡視、広報、環境整備に取り組んだ結果、重点地区内における過料適用件数は大幅に減少しており、市民のモラル・マナーが向上しました。今後とも、小倉、黒崎の重点地区における巡視活動を継続して実施するとともに、様々な媒体を用いた広報活動を展開します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	重点地区での巡視や過料の徴収では、違反者とのトラブルも発生しており、民間での対応は極めて困難であると考えています。このため、法的知識を有しトラブルへの対応力も高い警察OB(最小人数)により、効率的な取り組みとなるよう、今後とも工夫していくこととしています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	モラル・マナーアップ関連条例地域活動支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (1) - ④	
事業概要	市内5つの推進地区やその他の地区で実施する地域団体の迷惑行為防止活動に対して周知し、その取り組みを支援します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 平成25年度は重点B「(新)地域住民による迷惑行為防止の推進事業」の一部	人件費		目安の金額
	1,957 千円	2,500 千円			4,480 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民に“迷惑行為をしない・させない”の意識づくりを推進するため、地域団体による迷惑行為防止活動の輪を市内全域に広げます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	迷惑行為防止活動実施地域数						
	全市的に迷惑行為をなくしていくためには、地域住民が自主的に迷惑行為防止の取り組みを行うことが重要なため、活動に取り組む地域数を指標としました。 (最終目標と目標年度)平成25年度 延122地域	延 47 地域	延 82 地域	延 110 地域	134.1 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	迷惑行為防止活動参加者数						
全市的に迷惑行為をなくしていくためには、地域住民が自主的に迷惑行為防止の取り組みに参加すること重要なため参加者数を指標としました (最終目標と目標年度) 平成25年度 延48,000人	15,491 人	31,000 人	40,531 人	130.7 %	遅れ	大変順調	

活動計画	地域団体の活動支援(啓発物品)や活動を促進するため条例や支援制度の広報・周知活動を実施します。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	迷惑行為防止地域活動支援事業制度の周知・広報						
	全市的に迷惑行為をなくしていくためには、地域住民が自主的に迷惑行為防止の取り組みを行うことが重要なため、本制度の活用についての周知、広報(チラシ配布)を指標としました。	375 部	地域団体への チラシ配布数 375 部	506 部	134.9 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
				%	遅れ	大変順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 【経済性】 (同成果を低コストで) 【効率性】 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	目標を上回る多くの地域団体が市内全域で迷惑防止活動を実施していただきました。 また、活動団体への支援(啓発物品の支給)により、活動が活発化されてきました。 広報活動については、低コストとなるように無料の広告媒体(市政テレビ・ラジオ、市のHP、パンフレットなど)を中心に実施し、地域で活用する物品についても、低コストで効果の高いものとなるよう工夫しています。 市民のモラル・マナーの向上のためには、今後とも地域住民の自主的な活動を支援していくことが重要であると考えています。
-----------	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	安全・安心都市整備課
課長名	松本

事業名	迷惑行為防止基本計画推進事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (1) - ④	
事業概要	平成23年2月に策定した「北九州市迷惑行為防止基本計画」における基本方針“迷惑行為をしない させない「人づくり」”及び“迷惑行為をしない させない「環境づくり」”を推進するため、児童を対象にしたモラル・マナーアップ教育(教材配布)を実施していきます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	4,631 千円	2,211 千円			5,795 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「迷惑行為防止基本計画」の二つの基本方針である、迷惑行為をしない・させない「人づくり」、 「環境づくり」をに向けて、次代を担う児童のモラル・マナーの向上を図ります。		成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	モラル・マナーアップ標語コンクール応募者数			679 名	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	マナーアップ教育教材を用いて小学校の授業で学んだ児童が「迷惑行為をなくすためにはどうしたらよいか」を考え、標語にしています。教材による教育効果を高めるため、標語の応募者数を指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 1,400名	-	700 名	97.0 %		
					やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	迷惑行為の防止を総合的、計画的に推進するため「迷惑行為防止基本計画」(平成23年2月策定)に掲げた事業に取り組めます。平成24年度は、児童に対するマナーアップ教育や市民啓発の推進に取り組めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	マナーアップ教育教材の配付			8,600 部	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内の小学6年生を対象としたマナーアップ教育教材を作成し、各小学校に配付することにより、マナーアップ教育を推進します。	8,500 部	8,600 部	100.0 %		
					やや遅れ	順調
			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	平成24年度事業に関しては、小学6年生を対象にマナーアップ教育教材を使用した授業で、モラル・マナーについて学びました。また、児童が授業で学んだことを、自分で考えた標語を作ることで、児童のモラル・マナーアップの活動につなげることができました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	モラル・マナーの向上のためには子どもたちからのマナーアップ教育が重要であり、これまでも学校における道徳教育等の中で取組まれてきましたが、本市のモラル・マナーアップ施策と連携することで、より効果が高まるものと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	文化財の保存及び活用事業			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (1) - ①		
事業概要	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を行い、市内の文化財を保護・活用します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.20 人
	162,790 千円	175,170 千円			係長	0.50 人
				職員	0.50 人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を行い、市内の文化財を保護・活用します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	指定・登録文化財の件数	144 件	145 件	149 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。 (最終目標と目標年度) 25年度 147件(累計)			102.8 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。	活動実績	国・県と連携して適切に活動しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	指定・登録文化財の保護		国・県と連携して活動します。	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。			%		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市内に所在する文化財の把握に努め、国・県とも連携して活動するなど、適切な保護に努めました。指定文化財については、適切な保存活動を図れるよう支援しました。24年度に新規に登録された文化財については、国・県とも積極的に連携し調整を図るなどした結果、登録に至り、目標を超える成果が得られました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	文化財公開施設については、地元で組織する文化財保存団体の協力を得て管理しており、経済的な運営が行われています。埋蔵文化財の発掘調査については、開発者と発掘調査機関とで円滑な調整が行われています。概して、経済的で効率的に実施されています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	無形民俗文化財の保存・継承				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (1) - ②	
事業概要	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	1,162 千円	1,212 千円		11,050 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	指定無形民俗文化財保存支援団体数			16 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	指定無形民俗文化財の保存団体が行う保存・継承活動を支援します。 (最終目標と目標年度) 25年度 17団体	16 団体	17 団体	94.1 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	無形民俗文化財は、地域住民の熱意と努力により大切に守られてきたものであり、市の大切な「たから」として保存・継承していきます。市の支援は有効な手段であり、引き続き現行の補助金を継続していきます。	活動実績	保存団体と時機に応じて適切に協議しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	指定無形民俗文化財の保護		保存団体と時機に応じて適切に協議します。	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	指定無形民俗文化財を保護するため、保存団体と時機に応じて適切に競技します。			%		
					%	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	本事業は、昭和48年から指定無形民俗文化財の保存団体に対して補助金を交付しています。保存団体が行う伝承者の養成や文化財の公開のほか、用具の購入や修理の費用の一部に充てられており、子どもたちに対する技術の伝承など、伝統文化の保存・継承につながっています。市の無形民俗文化財保存団体の活動は、参加者の会費や地域の寄付金などで賄われており、保存団体の伝承活動に対する市の補助金は、文化財の保存・継承のため、有益な手段となっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	団体1件あたりの補助金は少額であり、無形民俗文化財の保存に関わる伝承者の育成、文化財の公開等に対して市が支援することは、文化財本団体の活動の強化につながると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・創造事業、響ホール事業・響ホールフェスティバル)				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ①	
事業概要	【劇場・創造事業】北九州市芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施します。 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	120,317 千円	149,489 千円		3,550 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	【芸術劇場・創造事業】芸術劇場の創造事業は、質の高い独自の舞台作品を全国にアピールするとともに、舞台芸術創造の発信拠点となることを目指します。 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】響ホール事業の中の響ホールフェスティバルは、オリジナリティある企画公演を提供し、響ホールから高レベルの音楽文化を発信することを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州芸術劇場・自主事業入場率	87 %	80 %	90 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州芸術劇場は、オリジナルの演劇作品等を制作し、公演しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)80% 平成25年度			112.5 %		
	響ホール事業・響ホールフェスティバル入場率	68 %	65 %	64 %	やや遅れ	順調
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かしたオリジナリティのある企画を公演しています。指定管理者における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)65% 平成25年度	98.5 %					

活動計画	【劇場・創造事業】北九州芸術劇場のプロデュース作品をはじめ、国内で活躍するアーティスト・カンパニーや国内の拠点劇場との共同制作作品など、高いレベルでの作品づくりに取り組み、全国に情報発信を行います。 【響ホールフェスティバル】新規性と独創性に富んだオリジナリティのある公演を企画し、提供することで、ホール自体の価値を高め、響ホールから高レベルの音楽文化を発信します。また、内容のあり方についての方策を検討しています。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州芸術劇場・創造事業の実施		オリジナルの演劇作品の制作	%	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州芸術劇場でオリジナルの演劇作品等を制作し、公演します。			%		
	響ホール事業・響ホールフェスティバルの実施		オリジナリティのある企画の公演	%	やや遅れ	順調
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かしたオリジナリティのある企画を公演します。	%					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	劇場・創造事業では、全国レベルの作品づくりを通して、創造する劇場として市内外に発信するとともに質の高い作品制作力を市内外に発信することができました。また、響ホールフェスティバルではコンサートの質、プログラムの先進性・オリジナル性などについて外部より高い評価を受けました。劇場・創造事業、響ホールフェスティバルはともに、本市独自の質の高いオリジナル公演であるため、本市の芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業です。全国への情報発信、まちの魅力づくりに成果を上げたものと評価できます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	劇場・創造事業、響ホールフェスティバルはともに、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山 陽子

事業名	北九州市自分史文学賞			施策番号	
				Ⅲ - 2 - (2) - ①	
事業概要	地域文化の育成を目的として、平成2年度に創設された全国を対象にした文学賞です。平成24年度で第23回の開催となり、全国でも本市が草分け的存在として認知されています。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	13,076 千円	13,735 千円			5,825 千円
				課長	0.05 人
				係長	0.30 人
				職員	0.30 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	平成2年から開催されている「北九州市自分史文学賞」を継続して実施し地域文化の育成を図ります。	成果実績	全国からたくさんの質の高い作品の応募を得ることができ、本市の文化都市としての認知を高めることができました。また、大賞作品を単行本として出版しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「北九州市自分史文学賞」作品応募数	330 件	400 件	356 件	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	第23回を迎える本文学賞は、全国・海外から多数の応募が寄せられ、全国的にも認知度の高い「ご当地文学賞」として、これまで実施してきました。作品募集件数を活動指標とします。 (最終目標と目標年度) 400件 平成25年度			89.0 %		
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ 遅れ	順調
			%			

活動計画	平成25年度(第24回)を最終回とし、「北九州市自分史文学賞」作品募集を実施します。			活動実績	活動の実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「北九州市自分史文学賞」作品募集における的を絞った広報		効果的な全国・北九州地域での広報	%	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	費用対効果の面から広報媒体を厳選しつつも効果的な全国広報、北九州地域での広報を行います。			%		
					やや遅れ 遅れ	順調
			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	応募件数は300件~400件程度に落ち着きつつありますが、他ではあまり募集のない「自分史文学」という独自のジャンルの文学賞を全国、海外に向けて発信しており、文化振興に貢献していると考えます。23回の実績を持ち、関東を中心に市外からの応募がほとんどで、全国的にも認知度がある文学賞として、これまで「文化都市北九州」の発信に努めて参りました。作品応募数は、昨年度356件で、ほぼ例年並みですが、審査員より、質としては非常に高くなっているとの評価もありましたので、成果の状況としては「順調」としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	全国及び海外を対象にした文学賞であるため、PRIには力を入れています。PRIについては、ノウハウを熟知し、より有効な宣伝を行えるよう、民間委託して実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	現代美術センター CCA北九州事業			施策番号	
				Ⅲ - 2 - (2) - ①	
事業概要	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関です。国内外から集まる現代美術の若手アーティストの指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための市民美術大学美術講座、子どもメディアワークショップなどの事業を行っています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
	60,193 千円	57,590 千円		14,900 千円	係長 0.70 人 職員 0.90 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	CCA北九州は現代美術の研究・学習機関として独創的なプログラムを進めるとともに、国内外における本市のイメージアップにも寄与しています。一方、CCAのネットワークを活かした地域向け事業を多彩に展開しています。引き続き他都市では、真似のできない、世界レベルの活動と市民を対象とした多様な現代美術関連事業の実施を両輪に活動を展開していくことにより、発信力の高い芸術・文化の振興を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	CCA北九州事業参加者人数	2,122 人	2,200 人	2,041 人		
	現代美術展覧会の実施、一般公開事業(市民美術大学、サウンドワークショップ等)の質の高い事業が維持できるよう努めます。 (最終目標と目標年度) 2,200人 平成25年度			92.8 %		
	(最終目標と目標年度)	%	順調			

活動計画	世界の第一線で活躍するアーティストによる現代美術展覧会の実施やアーティストブックの出版などに注力していきます。一般公開事業では、特に市民の満足度の高い市民美術講座を引き続き実施するとともに、実験音楽のコンサートや専門レクチャーなどCCAならではの質の高い事業が維持できるようにします。これらの事業は多くが市からの補助金で実施されています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	CCA北九州事業実施回数	21 回	24 回	22 回		
	CCA北九州の持つ人的ネットワークを活かして引き続き質の高い各種講座を開催していきます。			91.7 %		
	(最終目標と目標年度)	%	順調			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	世界の第一線で活躍するアーティストの招聘は日程的に厳しい状況になっているため、リサーチプログラム関連の展覧会が開催できないこともあり、目標には若干届きませんでした。その他については順調に来場者を集めることができました。特に市民美術講座は安定した集客を得ており、アンケートにおける満足度も高いものでした。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者や講師から採算を度外視した協力や支援をいただき、各事業を行っています。国内外から一流のアーティストを低いコストで招聘するだけでなく、市民向けの多彩な事業を効率的に展開しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	「知の融合」に向けた文化創造都市づくり事業			施策番号	
				Ⅲ - 2 - (2) - ①	
事業概要	これまでにCCA北九州が蓄積してきた成果やネットワークを背景に、芸術、科学、文学、建築などの各分野の専門家が既存の枠組みを超えて対話を重ねていき、幅広い分野のテーマを設定したコンファレンス(会議)です。海外にてシンポジウム、本市にて市民を対象にしたレクチャーを行っており、これまでのコンファレンス(会議)やシンポジウムについては講演録、DVDを作成しており、この内容について閲覧することができるようになっています。				
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	目安の金額	課長	0.10 人
	8,962 千円	8,200 千円		係長	0.30 人
			職員	0.10 人	(人件費備考)

事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
------	--

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	CCAの貴重な知的財産を活用して本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信するため、国内外の各分野の一流専門家の議論や創造の場を設定し、新たな知の領域を切り開きます。	成果実績	世界の第一線で活躍するアーティストだけでなく、各分野の研究者によるシンポジウム・レクチャーにより新たな知の領域を切り開きつつ、その情報を世界に発信し、本市の創造的な都市としての魅力向上に寄与しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	本市の創造的な都市としての魅力向上		「知の融合」を推進し、本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信します。	人	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
国内外の各分野の一流専門家の参加のもと、創造の場を設定し、新たな知の領域を切り開きます。こうした動きを世界に発信することで本市の創造的な都市としての魅力向上に寄与します。				%	やや遅れ	
(最終目標と目標年度)					遅れ	順調
(最終目標と目標年度)				%		

活動計画	平成24年度はメキシコ・メキシコシティでアーティスト、科学者、建築家、文学者などを迎えてレクチャー・シンポジウムを行います。この事業の実施に関しては、市からの補助金と共同で主催しているメキシコシティの民間財団であるアルノス47財団からの支援を予定しています。一方、本市においてもBTG?事業の狙いと意義を地域の方々を知っていただくことを目的にレクチャーを実施することとしています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	BTG?シンポジウム・の開催(メキシコ・メキシコシティ、北九州市)	1 回	2 回	2 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
国内外の各分野の一流専門家の参加のもと、シンポジウム・レクチャーを行います。様々な観点から生まれる考えや議論の場を持つことで、共同研究や共同制作の基盤を構築するとともに、創造の場を設定します。				100.0 %	やや遅れ	
				%	遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	海外において一流アーティストや研究者が参画しながらのソフト事業を本市が主催、コーディネートしていくという事業スタイルは、本市の他の施策にはないため、事業開催都市や海外において、本市の創造的な都市としてのシティプロモーションに大きな効果を発揮していると考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者だけでなく幅広い分野の専門家からの協力をいただき、事業を展開しています。また、海外での事業については、毎回現地のアート関連機関団体と連携し、財政的支援も得ながら実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	北九州国際音楽祭				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ①	
事業概要	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うものです。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、25年度で26回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着しています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.06 人 職員 0.06 人	(人件費備考)
	43,000 千円	40,000 千円				

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本事業は、①「総合音楽祭」の確立、②芸術性の追求・発信、③“北九州らしさ”の創造、④顧客満足度の向上、⑤若者世代の取り込み、⑥情報発信の強化を掲げ、国内トップクラスの音楽祭の実現を目指して取り組んでいます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州国際音楽祭の満足度の割合			79 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	来場者のコンサートの満足度の割合を指標とし、これまでの実績を参考に、85%を目標とします。 (最終目標と目標年度)85% 平成25年度	83 %	85 %	92.9 %		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートを実施します。	活動実績	バラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートの提供を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州国際音楽祭の入場者数			12,689 人	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本事業のプログラム①有料プログラム、②教育プログラム、③特別プログラム、④協賛事業の入場者数を指標とし、これまでの実績を参考に指標を設定します。	12,425 人	11,500 人	110.3 %		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業です。本市出身で世界で活躍する演奏家をはじめ、国内外の一流の演奏家を招き、良質な音楽の提供を通して本市の文化の振興を推進したものと評価できます。入場者数は増加しており、順調であると考えます。ただし、満足度が昨年に比べ減少していることもあり、引き続き、事業規模や実施方法、新たな外部資金の獲得など工夫した取り組みを実施する必要があると考えます。
	【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	北九州市文化振興基金				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ②	
事業概要	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	9,140 千円	11,706 千円			3,825 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本事業は、市の文化振興に役立てて欲しいとの篤志家による寄附金等の運用益が原資となり、市民の自主的な芸術・文化活動に対する助成や、資力のない児童に奨学金を交付するなど実施しているものです。本制度を活用することにより市民の芸術・文化活動が更に活発化し、本市の地域文化の振興に寄与することを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	25 件	30 件	31 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域文化の裾野を支える市民の自主的な芸術・文化活動に対し、事業補助金を交付します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 25件			103.3 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。			活動実績	予定通り募集を実施しました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州市文化振興基金奨励事業の募集実施回数	2 回	2 回	2 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	文化振興基金の助成件数については、市民の自主的な活動に対して行うものであるため、政策的に増加させるものではありませんが、一定の件数の助成を行うことができたと評価できます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業の財源は、篤志家による寄附金等の運用益が原資となっているため、一般財源の持ち出しが少なく済んでおり経済性は高いと考えています。本事業の実施形態(寄附金等の運用益を原資にして実施)から、実施主体は市以外考えられません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化政策課
課長名	用田

事業名	芸術文化育成負担金・補助金				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ②	
事業概要	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、市が予算の範囲内において助成を行う事業です。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	37,750 千円	35,750 千円		5,825 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	様々な分野や年代の人が広く文化芸術に親しむことの出来る環境づくりを下支えます。	成果実績	積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進を図りました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	各種文化イベントの実施		本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進	%	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進を図ります。 (最終目標と目標年度)			%	やや遅れ	
(最終目標と目標年度)			%	遅れ	順調	

活動計画	本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進のため積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行います。あわせて、より効果的な文化芸術活動の支援のあり方についても検討を行います。	活動実績	補助を行い、本市の特性である市民レベルでの文化芸術活動の支援、促進を図りました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	芸術文化育成負担金・補助金交付団体数		15 団体	15 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市民の文化芸術活動の促進を図るための補助金を交付する団体数を指標とします。	16 団体	15 団体	100.0 %	順調		
				%	やや遅れ	遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	助成制度や助成団体数の多寡が直接政策の取り組みの指標や成果を示すものではないと考えていますが、本市にはプロの芸術家や音楽家は非常に少なく、働きながら文化活動を行っているケースが多数であり、助成制度の存在により一定の市民レベルでの活動を支えている側面はあると考えます。 各団体の定期演奏会や文化祭は予定どおり実施されており、多数の来場者の満足を得たものと思われることから、文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進が図られたものと評価します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	事業規模の再検討、補助金のみならず協賛拡大など、運営体制についての指導も必要だと考えます。助成制度により北九州シテリオペラなどの市民レベルでの文化芸術活動を支えており、制度の有効性は高いと考えます。魅力ある「まちづくり」を担う「人材」の育成のため、現在のところ事業主体は市が適当と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化政策課
課長名	用田

事業名	「松永文庫」運営事業			施策番号	
				Ⅲ - 2 - (2) - ③	
事業概要	映画や映画を通した生活文化の貴重な資料である「松永文庫」の管理運営に要する経費です。 ※ 平成25年夏には、新たに旧大連航路上屋に展示室を整備します。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)		目安の金額
	8,541 千円	7,977 千円		2,325 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	映画や映画を通した生活文化の貴重な資料である「松永文庫」を展示し、市民が日ごろ馴染みのない映画資料や昔、懐かしいウィークリー(地元映画館の宣伝用パンフレット)などに、気軽に触れる機会を提供します。 同時に門司港レトロ地区で館外企画展を実施し、レトロ地区のにぎわいづくりにも寄与することを目指します。			成果実績	入場者数は、昨年と比較し、微増しました。マスコミ等に多く取りあげられ、市民のみならず、映画関係者も来場しています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「松永文庫」入場者数	9,675 人	12,000 人	10,135 人		
	より多くの入場者を増やすために、魅力ある企画展や館外企画展を積極的に実施し、「松永文庫」の周知を図ります。 開館5ヶ月の入場者数が、4,335人、1年間に換算すると約10,000人、毎年500人ずつ増加するとし、目標を12,500人としました。 (最終目標と目標年度) 12,500人 平成25年度					84.5 %
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	「松永文庫」の収蔵品は貴重なものであり、文化振興の推進に必要なツールの一つです。これを用いて門司港レトロ地区のにぎわいづくりに寄与するために、積極的に企画展等展開していきます。 また、関門連携において下関市と合同で企画展の開催を検討するなど、他自治体との交流も検討し、門司港レトロ地区全体のにぎわいづくりに寄与するために、積極的に事業展開していきます。	活動実績	松永氏の知名度や充実した映画資料により、行政だけでなく、マスコミ(新聞、テレビ等)に、度々取り上げられ、門司港だけでなく、北九州市の活性化に貢献しています。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「松永文庫」のPR	松永文庫PR 実施				
	より多くの入場者を増やすために、魅力ある企画展や館外企画展を積極的に実施し、「松永文庫」の周知を図ります。					%
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	入場者のアンケート調査等において、貴重な資料を展示しており観ることができて良かったとの肯定的な意見が多く、特に高齢者では、昔懐かしい資料を観ることができ、再度来場したいとの意見が多数寄せられました。 このように、「市民が芸術・文化に接する機会の拡大」についての貢献度は大きいと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	収蔵品については寄附されたものであり、既設の旧放課後児童クラブを活用するなど低コストで施設整備をするともに、運営経費についても、門司市民会館の運営団体に委託することで管理費などが削減でき、他の市有施設に比べ効率的な運営を行っていると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化政策課
課長名	用田

事業名	文化情報提供事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ③	
事業概要	文化振興事業の一環として、「まちづくりへの寄与、地域文化の振興」を目的とした月刊誌「ひろば北九州」を発行し、市民のふろさと意識の高揚と市民意識の向上を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	29,018 千円	26,200 千円		1,075 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本市の文化振興、まちづくりの総合情報誌として「ひろば北九州」を発行し、市民の文化及び生活の向上に寄与するとともに、多くの市民に文化情報等の提供を実施します。			成果実績	購読者数が1,596から1,340へ減少傾向にあります。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	「ひろば北九州」の購読者数	1,596 部	1,700 部	1,340 部			大変順調 順調
	市民へ、より効果的な文化情報の提供を行い、芸術・文化に接する機会の拡大に寄与します。 ※H25. 3月で廃刊 (最終目標と目標年度) 郷土密着情報を提供し購読者数の増加を図ります。			78.8 %	やや遅れ 遅れ		
	(最終目標と目標年度)	%	やや遅れ				

活動計画	これまでの行政評価の結果をふまえ、平成24年度末の廃刊に向けて事業の整理を行います。					活動実績	「ひろば北九州」の刊行が、芸術・文化に接する機会の拡大に寄与していることに対して、一定の評価は得ていると考えます。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	事業規模の検討	効果的な情報発信		%			大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	郷土に密着した文化総合情報を市民に提供するために、効果的な情報発信を行います。			%	やや遅れ 遅れ			
		%	やや遅れ					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	記事の内容を工夫するなどして購読者から一定の評価は得たものの、会員の減少が続いています。 ※「ひろば北九州」はH25. 3月で廃刊しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成25年度の事業見直しに向けた検討期間と位置づけた年度であり、経費の節減に努めつつも、従来の事業フレームでの事業実施となりました。※「ひろば北九州」はH25. 3月で廃刊しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	美術館普及課
課長名	中尾

事業名	美術館の企画展充実事業			施策番号 Ⅲ - 2 - (2) - ③		
	美術館本館および分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進します。			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費	目安の金額
	126,491 千円	150,454 千円		32,250 千円		係長 0.65 人 職員 3.05 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、豊かな感性の育成と教育文化の向上を目指して、質の高い作品などに接する機会を提供していきます。また、芸術・文化活動をしている人たちの発表の場や交流できる機会の拡大をしていきたいと考えています。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	美術館の入館者数	189,623 人	300,000 人	262,267 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	入館者数は、魅力ある展覧会を開催するうえで最も分かりやすい指標です。 (最終目標と目標年度) 年間300,000人 平成25年度			87.4 %		
	コレクション展の観覧者数	28,251 人	32,210 人	39,443 人	やや遅れ 遅れ	順調
コレクション展は、学芸員が、美術館の所蔵作品を利用して市民や子どもたちのために自主企画する展覧会で、美術館単独での成果指標になります。 (最終目標と目標年度) 50,000人 平成26年度	122.5 %					

活動計画	収蔵作品及び作家についての研究を含め、テーマ性のあるコレクション展や自主企画展を実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	展覧会の開催回数	72 回	70 回	72 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民の来館を目指します。			102.9 %		
	コレクション展のテーマ件数	9 回	10 回	10 回	やや遅れ 遅れ	順調
美術館所蔵の作品を有効に活用して、テーマ性のある魅力的な展覧会を開催します。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	各コレクション展のテーマ性を前面に出すことで、年間を通じバラエティ豊かな内容を紹介できました。また、テーマに合わせ、様々な角度から調査内容を掘り下げることができました。入館者数については目標には届きませんでしたが、人気の高い大型展の開催等により、昨年より約4割の増加となりました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	厳しい財政事業を踏まえ、開催経費やその他の経費を精査したうえで、その年の目玉となる大規模な企画展の開催やコレクション展の展示替え等を計画的に実施し、何時来館されても楽しめるような魅力的な展覧会を今後も開催していくように努めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	博物館普及課
課長名	栗原

事業名	博物館企画展・特別展充実事業			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ③		
事業概要	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るものです。 (平成24年度特別展) ・春の特別展「アンモナイトのふしぎ」(3月10日～5月6日)、・夏の特別展「対決!恐竜展」(7月14日～9月23日)、・秋の特別展「いのちのたび博物館 10年のあゆみ」(10月20日～12月2日)					
	<table border="1"> <tr> <td>事業手法</td> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> </table>					事業手法
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	目安の金額	課長	1.40 人	
	63,512 千円	59,956 千円		係長	1.80 人	
			職員	5.40 人	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「いのちのたび」をコンセプトとして、歴史、考古、自然科学等に関する資料の収集・保管、研究により、本市の学術文化の発展に資することを目的とします。また、企画展・特別展の魅力向上を図るとともに、併せて実施する「普及講座」の充実等により、地域の賑わいの拠点施設をめざします。	成果実績	リニューアルに伴う臨時休館(12月3日～3月22日)により入館者数の減を想定していましたが、夏の特別展が過去最大の来館者(102,921人)を達成するなど、目標を上回る入館者数となりました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	博物館総入館者数	37 万人	35 万人	37 万人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	常設展・特別展に加え、普及講座等の開催により、より多くの方に博物館に来館していただくことで、本市の文化発展に資することとします。 (最終目標と目標年度)35万人 平成25年度			105.7 %		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	市民や子どもたちの自然や歴史に対する関心を育み応える場として、①年4回にわたり四季折々に特別展を開催、②ポケットミュージアムの展示更新、③博物館の様々な専門分野の学芸員による各種講演会や室内講座、野外観察会の開催、等に取組みます。	活動実績	市民の関心の高いものをテーマに特別展を3回開催し、入館者数の増につなげました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	特別展の入館者数	133,902 人	100,000 人	148,720 人	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を一層高めます。			148.7 %		
	教育普及講座の実施回数	66 回	50 回	63 回	やや遅れ 遅れ	大変順調
学芸員の専門知識や研究成果を活用し、市民の自然史及び歴史に対する関心を育むことを目的に講座を開催します。			126.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果については、総入館者数が約4ヶ月の休館期間(平成23年度同時期の入館者数83847人)があったにもかかわらず、前年度とほぼ同数の入館者があったため、大変順調としました。 活動については、「対決!恐竜展」が夏の特別展としては過去最高の入館者数があり、目標を大幅に上回ったことから、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	「対決!恐竜展」では、マスコミ(新聞社・放送局)と実行委員会を構成し、民間資金の導入を図るとともに、両社による大規模な広報活動を展開したことで、予想を上回る入館者数を確保するなど、経済性・効率性を高めることができました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	26年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	松本清張記念館
課長名	木村

事業名	松本清張記念館の企画展充実事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ③	
事業概要	①企画展を開催します。(年2回) ②講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行いません。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	7,542 千円	7,552 千円		8,475 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民の豊かな感性の育成と教養文化の醸成を図るためには、質の高い作品などに接する機会を提供することが求められています。松本清張記念館では、館の一層のPRに努めるとともに、継続的に質の高い企画展等を開催することにより市民が芸術・文化に接する機会の拡大に努めます。	成果実績	年3回の特別企画展開催により、入館者数の確保に貢献しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	松本清張記念館の入館者数	49,731 人	60,000 人	51,099 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	平成21年度の生誕100年記念事業で大幅に増加した入館者数が22年度から減少に転じました。この傾向に歯止めをかけるべくさらに魅力ある企画展等を開催し、入館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度)年間入館者数の増加を目標とします 平成25年度			85.2 %		
	企画展入場者の満足度	84 %	85 %	89 %	やや遅れ 遅れ	順調
来館者アンケートのうち企画展の内容についての設問で、「非常に良い」「良い」といった満足度の高い評価の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)90% 平成25年度	104.7 %					

活動計画	開催した企画展の成果を分析し、新規入館者の増加及びリピータ率の向上を図ります。さらに魅力的な企画展・特別展を開催します。	活動実績	H24.1.20~5.6特別企画展「いつもカメラを携えて-松本清張が愛したカメラとその時代-」、H24.8.1~10.31特別企画展「松本清張と映画」、H25.1.19~5.6特別企画展「昭和史発掘への招待」			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展の開催回数	2 回	2 回	3 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展・特別展を開催します。			150.0 %		
						やや遅れ 遅れ
			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成24年度は3回の企画展を開催し、16,867人の入場がありました。内容についてもアンケート結果で好評を得ています。また、開館記念講演会の開催など質の高い文化に接する機会を提供しており、活動の状況としては順調と考えます。今後もさらに魅力的な企画展等を開催することが課題と思われます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	委託業務については、コンペや予定価格の見直し等、経済的でより質の高い事業を行えるよう努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文学館
課長名	米満

事業名	文学館の企画展充実事業				Ⅲ - 2 - (2) - ③	
	市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、豊かな感性の育成と教養文化の向上を目指していくために、文学に接する機会を提供していきます。また、関連の講演会や文学講座などを開催し、入館者の拡大に努めます。				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()	
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.50 人
	20,791 千円	20,104 千円			12,625 千円	係長 0.50 人 職員 0.25 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。また、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供し、豊かな感性の育成と教養文化の向上に努めます。	成果実績	親子で楽しむことのできる内容の夏休み企画展を行った結果等により、年間入館者数が、昨年度より約20%増加しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	文学館入館者数	10,741 人	13,000 人	13,349 人 102.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調

活動計画	前年度に引き続き、定期的に魅力ある企画展を開催し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。又、入館者数の増加に努めます。	活動実績	夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」開催等により、入館者数が目標を上回ることができました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展等の開催回数	4 回	4 回	4 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	24年度は、夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」開催等により、入館者が増加し(H23 10,741人→H24 13,349人)、目標を達成することができました。 アンケートでは、企画展の内容について非常に高い評価を得ています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	企画展は、毎回違う内容で実施するため、経済性・効率性の向上を図りにくいですが、できる限り最少の費用で最大の効果があげられるよう、毎回検討し企画展を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・公演事業、響ホール事業)			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ③		
事業概要	【劇場・公演事業】エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広く各年代層をターゲットに実施します。また劇団・アーティストと共同し、作品制作したり、民間企業と事業連携し、様々なジャンルの公演を実施します。 【響ホール事業】室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートを実施するとともに、響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサート等を行います。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額		(事業費備考)	目安の金額
120,317 千円		149,489 千円		3,550 千円	係長 0.17 人 職員 0.17 人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	【劇場・公演事業】ラインナップの充実を図ることで観客層を拡大し、都市の賑わいとシティブランドを創出し、市民生活に潤いと誇りを提供します。 【響ホール事業(企画事業)】国内外の一流の演奏家や国内外で活躍する地元出身の演奏家等の起用を通じて、本物の音楽に触れる機会を提供します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州芸術劇場・自主事業入場率			90 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州芸術劇場は、良質な舞台芸術の鑑賞機会を提供しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)80% 平成25年度	87 %	80 %	112.5 %		
	響ホール事業・企画事業入場率			64 %	やや遅れ	順調
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした質の高い音楽鑑賞の機会を提供しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)65% 平成25年度	68 %	65 %	98.5 %	遅れ		

活動計画	【劇場・公演事業】事業予算の効果的な執行を図りながら、良質で幅広いラインナップの舞台芸術を提供します。【響ホール事業(企画事業)】「響ホールフェスティバル」では、新規性と独創性に富んだオリジナリティのある公演、「響シリーズ」では、市民が身近に内外の優れた本物の音楽にふれる機会の公演、「響ホールへようこそ」では、クラシック初心者向けやファミリー向けの公演を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州芸術劇場・公演事業の実施		良質な舞台芸術の鑑賞機会の提供	事業実施済	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	良質な舞台芸術の鑑賞機会を提供します。			%		
	響ホール事業・企画事業の実施		良質な音楽の鑑賞機会の提供	事業実施済	やや遅れ	順調
良質な音楽の鑑賞機会を提供します。			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	【劇場・公演事業】幅広く様々なジャンルの作品を網羅し多くの人に良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供しました。 【響ホール事業(企画事業)】音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした良質な音楽を鑑賞する機会を提供しました。
	【活動の状況】を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	

劇場・公演事業、響ホール事業・企画事業はともに、市の外郭団体がっており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。
本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	北九州国際音楽祭			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ③		
事業概要	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、25年度で26回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05人
	43,000 千円	40,000 千円		1,625 千円	係長	0.06人
					職員	0.06人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 本事業は、①「総合音楽祭」の確立、②芸術性の追求・発信、③「北九州らしさ」の創造、④顧客満足度の向上、⑤若者世代の取り込み、⑥情報発信の強化を掲げ、国内トップクラスの音楽祭の実現を目指して取り組んでいます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州国際音楽祭の満足度の割合			79 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	来場者のコンサートの満足度の割合を指標とし、これまでの実績を参考に、85%を目標とします。 (最終目標と目標年度)85% 平成25年度	83 %	85 %	92.9 %		
					やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートを実施します。	活動実績	バラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートの提供を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州国際音楽祭の入場者数			12,689 人	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本事業のプログラム①有料プログラム、②教育プログラム、③特別プログラム、④協賛事業の入場者数を指標とし、これまでの実績を参考に指標を設定します。	12,425 人	11,500 人	110.3 %		
					やや遅れ	順調
			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業です。本市出身で世界で活躍する演奏家をはじめ、国内外の一流の演奏家を招き、良質な音楽の提供を通して本市の文化の振興を推進したものと評価できます。成果指標としての満足度(来場者アンケートによる)はやや減少しているものの、不満の回答は1件も無く、別の設問「音楽祭にまた来てみたいと思うか」に対しては、92%の方が「思う」と答えており、総合的に勘案して順調であると考えます。
	【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	
	市の外郭団体が実行委員会の事務局を担っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、現状よりもさらに経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。本市を代表する音楽イベントである国際音楽祭は、歴史もあり、知名度もあります。継続的に実施しないと今までの積み重ねが無くなってしまいます。本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を継続的に実施できる純粋な民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	漫画ミュージアム	
		課長名	川副	
事業名	漫画ミュージアム普及事業			施策番号
				III - 2 - (2) - ③
事業概要	漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指します。			事業手法
				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費
	73,994 千円	62,000 千円		目安の金額 課長 1.00人 係長 2.00人 職員 2.00人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州ゆかりの漫画家やその作品を地域の重要な資源として活用し、様々な漫画の魅力を幅広い世代に伝え、漫画文化の普及を図ります。		成果実績	企画展5回、ワークショップ28回開催しました。入館者数の確保に貢献しました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	来館者年間10万人	-	66,666 人	66,838 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	漫画ミュージアムは平成24年8月に開館。年間10万人の来館者を目指し、小倉駅新幹線口のにぎわいづくりに寄与します。(目標は数値は平成24年8月～平成25年3月の8ヶ月分の目標数値)			100.3 %		
	(最終目標と目標年度) 漫画文化の普及・平成24年度				やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	魅力的な企画展やワークショップ、イベントなどを開催し、目標入館者の確保に努めます。			活動実績	【企画展】夢と冒険の漫画ワールド展(H24.8.3～10.21)、ルパン三世展(H24.11.3～12.28)、海洋堂フィギュア展(H25.1.12～2.24)、アズと人気絵師展(H25.3.2～3.10)、少女漫画の世界展(H25.3.20～5.19) 【ワークショップ】漫画体験17回、漫画教室14回、海洋堂フィギュア展ワークショップ16回	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展の開催回数	-	4 回	5 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州市ではこれまであまり目にすることがなかった漫画やアニメなど、魅力ある企画展を開催することにより、集客を図ります。			125.0 %		
	ワークショップの開催回数	-	32 回	47 回	やや遅れ 遅れ	大変順調
漫画文化に親しみ、将来の漫画家を目指す人材を育てるため、漫画の描き方などを教える漫画教室や漫画等に関連したワークショップを開催します。(月4回程度を予定)			146.9 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	漫画文化の普及を図るため、企画展やワークショップを多数開催しました。企画展やワークショップの内容によって、様々な年齢・性別の方にご参加いただき、幅広い層への漫画文化の普及が図れていると考えています。また、年間10万人を達成するペースで来館者も増加していることから、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ワークショップの開催には漫画ミュージアムサポーターなどの協力により、人件費の削減を図っています。また、イベント実施にあたっては、あるあるCityや他機関と共同で開催するなど、低コストでの実現に力を入れています。民間活力導入に関しては、貴重資料の取り扱いの観点から困難と思われます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・学芸事業、響ホール事業)			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ④		
事業概要	【劇場・学芸員事業】学校や地域でのアウトリーチ(教育活動)や作品の創造を支える専門家を育成する講座、舞台芸術を身近に体験するワークショップなどを実施します。 【響ホール・音楽アウトリーチ事業】クラシック音楽に全く興味のない人や関心があってもホールまで足を運ぶことのできない層を対象に、クラシックの演奏家を派遣して身近な環境で音楽を直接届ける活動です。					
	<table border="1"> <tr> <td>事業手法</td> <td> <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> </table>					事業手法
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人	
	120,317 千円	149,489 千円		3,550 千円	係長 0.17 人 職員 0.17 人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	【劇場・学芸事業】演劇を通して、地域の人々とながら、共に育っていくこと等を目的としています。 【響ホール・音楽アウトリーチ事業】クラシック音楽の担い手(演奏者側・聴衆側)の育成などを図ることを目的としています。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州芸術劇場・学芸事業参加者数			2,223 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	アウトリーチ活動や専門家養成講座など学芸事業の参加者数を指標とします。 (最終目標と目標年度)1,700人 平成25年度	1,670 人	1,650 人	134.7 %		
	響ホール事業・音楽アウトリーチ事業の聴衆者人数			2,946 人	やや遅れ 遅れ	順調
クラシックの演奏家を学校や市民センターに派遣するアウトリーチ事業の聴衆者人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)2,500人 平成25年度	3,443 人	2,500 人	117.8 %			

活動計画	【劇場・学芸事業】これまで培ってきたアーティストとの交流や、信頼関係をもとに、地域のコミュニティ等との連携を図りつつ、交流事業や育成事業、普及事業、教育事業を実施します。 【響ホール・音楽アウトリーチ事業】訪問コンサート事業、音楽ワークショップ事業、地域の音楽文化の担い手育成・継承事業、市民の音楽活動支援事業を実施します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州芸術劇場・学芸事業の事業実施ジャンル			4 ジャンル	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	交流事業・育成事業・普及事業・教育事業といった事業のジャンルを指標とします。	4 ジャンル	4 ジャンル	100.0 %		
	響ホール事業・音楽アウトリーチ事業の事業実施ジャンル			4 ジャンル	やや遅れ 遅れ	順調
訪問コンサート、音楽ワークショップ、地域の音楽文化の担い手育成・継承、市民の音楽活動支援といった事業のジャンルを指標とします。	4 ジャンル	4 ジャンル	100.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	【劇場・学芸事業】ワークショップ、講座等を通じて、演劇、ダンスを様々な形で体験し、演劇・ダンスならではの面白さ、表現する喜びを提供し、人材の育成を図るとともに、演劇ファン層の拡大を図ることができました。 【アウトリーチ事業】学校等身近な場所で生の音楽に触れることができました。実施先の小学校担当者、市民センター来場者のアンケートでも高い評価を得ており、クラシック音楽の裾野拡大に寄与したと判断できます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	劇場・学芸事業、アウトリーチ事業はともに、市の外郭団体がっており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。 本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	芸術文化振興財団委託事業			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ④		
事業概要	市民の多様な芸術文化ニーズに対応した事業を実施し、芸術文化の振興に寄与するために、北九州芸術劇場指定管理や響ホール指定管理による事業を行います。					
	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	64,167 千円	75,741 千円			1,275 千円	係長 0.04 人 職員 0.04 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市少年少女合唱団、北九州市ジュニアオーケストラの活動を通じて、合唱技術や演奏能力の向上並びに団員相互の親睦を深め、情緒豊かな青少年を育てるとともに、市民文化の高揚を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市少年少女合唱団の団員数	100 人	90 人	124 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市少年少女合唱団に在籍している人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)90人 平成25年度			137.8 %		
	北九州市ジュニアオーケストラの団員数	115 人	110 人	95 人	やや遅れ 遅れ	順調
北九州市ジュニアオーケストラに在籍している人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)110人 平成25年度	86.4 %					

活動計画	【北九州市少年少女合唱団】地域の音楽文化を担う演奏家の育成と活躍の場を広げるため、定期演奏会やサマーコンサートを実施します。 【北九州市ジュニアオーケストラ】情緒豊かな青少年の育成及び市民文化の向上を図るため、定期演奏会やスプリングコンサートを実施します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州市少年少女合唱団の定期演奏会等回数	2 回	2 回	2 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	定期演奏会、サマーコンサートの回数を指標とします。			100.0 %		
	北九州市ジュニアオーケストラの定期演奏会等回数	2 回	2 回	2 回	やや遅れ 遅れ	順調
定期演奏会、スプリングコンサートの回数を指標とします。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	2団体とも定期演奏会に加えて、市内イベントに出演し、音楽を楽しむ機会を提供することができました。その過程において、異年齢の団員との活動の中で、合唱や演奏を通して自主性や協調性等を学ぶとともに、情操豊かな人間形成と音楽文化の高揚を図ることができました。 練習活動を通じて、情緒豊かな青少年を育てることを目的とした本事業は、施策目標「芸術・文化の担い手の育成」に対する有効性は高いものと考えられます。
	【活動の状況】を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	
本事業は市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。ただし、短期的な成果が見えづらいため、目的と効果を検証しながら、事業を実施する必要があります。 本市において、本事業のように大規模かつ計画的、総合的に実施している民間団体は存在せず、市が関与することは適切であるとされます。		

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	芸術文化体験事業			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ④		
事業概要	通常の演奏会や公演の鑑賞ではなく、様々な形で子どもたちが身近に芸術文化を体験することでその面白さを楽しめるようにする学校等アウトリーチや、地元文化団体等が企画した芸術体験プログラム(ワークショップ等)を夏休み期間中に集中的に行い、親子で文化を楽しむ内容とすることで芸術文化の広がりに供します。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額		(事業費備考)	目安の金額
5,157 千円		6,621 千円		3,550 千円	係長 0.17 人 職員 0.17 人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。子ども文化ふれあいフェスタは、地元文化団体等が企画したワークショップ等を年1回行います。学校訪問コンサートは、アーティストが直接学校に向いて生の音楽等を提供します。	成果実績	様々な文化体験や音楽鑑賞により子どもたちの豊かな人間性と多様な個性を育みました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数			1,018 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子ども文化ふれあいフェスタへの参加者人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)680人 平成25年度	1,043 人	680 人	149.7 %		
	学校等訪問コンサート参加者人数			1,318	やや遅れ 遅れ	順調
学校等訪問コンサートとは、北九州市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏を聞いてもらうコンサートです。コンサート参加者人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)1,800人 平成25年度	1,637 人	1,800 人	73.2 %			

活動計画	【子ども文化ふれあいフェスタ】8月下旬に文化団体等が企画したワークショップを実施し、芸術文化に対する関心を高めます。 【学校等訪問コンサート】20校程度の学校を訪問し、アーティストを派遣して子どもたちに生の演奏を提供します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	子ども文化ふれあいフェスタ実施回数			1 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども文化ふれあいフェスタの実施回数を指標とします。	1 回	1 回	100.0 %		
	学校等訪問コンサート実施回数			17 回	やや遅れ 遅れ	順調
学校等訪問コンサートとは、北九州市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏を聞いてもらうコンサートです。コンサート実施回数を指標とします。	24 回	20 回	85.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	子ども文化ふれあいフェスタでは、普段接する機会が少ない伝統芸能の分野(日本舞踊、いけばな、琴等)を中心とした体験型の催事を通して、その楽しさを実感してもらうことができました。次に、学校等訪問コンサートでは、本市出身の市民文化賞受賞アーティストなどによるコンサートを実施し、子どもたちや学校の先生からたくさんのお褒めをいただくことができました。本年度はアーティストの都合により、若干回数が減少しましたが、今後は目標回数を回復できる見込みのため、長期的視点にたつて活動状況は順調としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ふれあいフェスタについては、当日の運営業務等は外部委託を行い、低コストで実施しています。しかし、高い効果が得られるようにさらに、工夫する余地はあります。学校等訪問コンサートについては、外部委託しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	現代美術センター CCA北九州事業			施策番号	
				Ⅲ - 2 - (2) - ④	
事業概要	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関です。国内外から集まる現代美術の若手アーティストの指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための市民美術大学美術講座、子どもメディアワークショップなどの事業を行っています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
	60,193 千円	57,590 千円		14,900 千円	係長 0.70 人 職員 0.90 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	若手アーティストのための学習研究プログラム(リサーチ・プログラム)では、世界のアートシーンで活躍しうる人材育成を目指します。プログラム修了後、国内外で活躍しているこれまでの多くの受講生により、CCA北九州の評価と認知度がさらに高まっていくと思われます。また、地域の子どもの対象とした子ども向けワークショップでは、CCAの持つ専門性や独創的なネットワークを活かし、子どもたちに本市の芸術文化の担い手として育成することを目的とします。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	リサーチプログラムの受講者数	6 人	6 人	4 人 66.7 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	国内外の若手アーティストが本市に滞在しながら自身の制作活動を進めるプログラムであり、世界に通用する人材育成を目指しています。今後はさらにプログラムを充実させていきます。 (最終目標と目標年度) 6名程度 平成25年度					
	子ども対象プログラム参加者数	40 人	30 人	31 人 103.3 %	やや遅れ 遅れ	順調
鋭い感性や創造性を子どもたちが備えていくことは、本市の未来にとっても大切な人的投資であると考えます。CCAの専門性とネットワークを活かし、子どもの参加者の拡大と質の高いプログラム実施を心がけていきます。 (最終目標と目標年度) 30名程度 平成25年度						

活動計画	今年度も引き続き、リサーチプログラムの充実を図り、北九州から世界に通用するアーティストを育成していきます。また、子ども対象プログラムでは、プロの映像作家を招き、コンピューターを使用して映像作品を作成することにしています。これらのプログラムの多くは市からの補助金で実施されています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	リサーチプログラム受講生の活動及び発表回数	3 回	2 回	2 回 100.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	世界の第一線で活躍するアーティストを講師として招聘し、受講生はレクチャーを受けていますがその成果を発表する場(展覧会等)をいっそう充実させていきます。					
				%	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動は予定どおりに行い、ほぼ目標は達成しています。リサーチプログラムに関しては、受講に係る個人負担が高いため、受入決定後に経済的理由で参加を取りやめたケースがありました。一方、子ども対象プログラムについては、プロの映像作家を講師に映像作品を作り上げていくワークショップを開催し、予定どおりの子どもの参加を得ることができました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者や講師から採算を度外視した協力や支援をいただき、各事業を行っています。国内外から一流のアーティストを低いコストで招聘するだけでなく、市民向けの多彩な事業を効率的に展開しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	北九州市子どもノンフィクション文学賞			施策番号	
				Ⅲ - 2 - (2) - ④	
事業概要	「ノンフィクション」というジャンルの作文を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、平成21年度に全国の小中学生を対象に創設した文学賞です。			事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)		目安の金額
	10,025 千円	13,565 千円	5,825 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 平成21年から開催されている「北九州市子どもノンフィクション文学賞」を継続して実施し、子どもたちが人間・社会への関心や思考力を高めながら成長していく契機とします。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市子どもノンフィクション文学賞への市内からの応募割合	83 %	50 %	35 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子どもたちが自身の体験を通して、ノンフィクション分野の文学にふれる機会となる「北九州市子どもノンフィクション文学賞」への応募総数における市内からの応募割合を指標とします。 (最終目標と目標年度) 50% 平成25年度			70.8 %		
	北九州市子どもノンフィクション文学賞応募全国ブロック数	12 ブロック	17 ブロック	14 ブロック	やや遅れ 遅れ	順調
全国規模での事業展開状況が分かる指標として九州以外の全国を8ブロックに分け、九州8県と海外応募を含めて17ブロックとし、指標とします。 (最終目標と目標年度) 17ブロック 平成25年度	82.4 %					

活動計画	年1回の「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集を継続します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集における的を絞った広報		効果的な全国・北九州地域での広報	%	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	費用対効果の面から広報媒体を厳選しつつも効果的な全国広報、北九州地域での広報を行います。			%		
				%	やや遅れ 遅れ	順調
	%					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	<ul style="list-style-type: none"> 第4回目も1回～3回に続き、全国各地の子ども達から1,000編を越す多くの作品をご応募をいただき、審査員からの評価も高い力作がそろいました。 全国ブロック数は増加しており、着実に全国的な認知度を上げています。北九州市から全国の子どもたちへこのような文学賞を発信していくことは、文化の担い手の育成に大きく貢献していると考えます。 また、本市主催の文学賞なので、市内の子ども達の育成にも目を向け、市内からの応募割合を指標として、引き続き積極的にPRして、認知度を高めていきます。 本市では平成2年度より、「北九州市自分史文学賞」を継続して実施していますが、当文学賞は子ども向けの文学賞として、他都市ではあまり例のない本市独自の取り組みであり、文化の担い手の育成に十分貢献していると言えます。
	【活動の状況】を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度の広報については、これまでの広報実績をもとに、広報媒体を厳選する等委託料に係る経費の節減に努めました。 平成24年度は、市制50周年事業として、第4回子どもノンフィクション文学賞表彰式&「枕草子とマリンバで綴る『春・夏・秋・冬』」を開催したため、広報費用・当日運営費等が、前年度より増加しました。 現在のところ、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考えます。 	

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化政策課
課長名	用田

事業名	黒崎副都心「文化・交流拠点地区」整備事業			施策番号		
				Ⅲ - 2 - (2) - ⑤		
事業概要	「文化・交流拠点地区(約3.3ha)」において、文化・生涯学習・コミュニティ活動を通して人が交流する場や、快適に憩える都市空間を整備することにより、副都心に相応しい都市機能の充実と地域の回遊性の向上を図り、黒崎の活気と賑わいを再生させます。 導入施設:黒崎ひびしんホール(大ホール826席、中ホール約310席、リハーサル室、練習室、会議室等)			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額		(事業費備考)	目安の金額
2,468,360 千円		293,784 千円		7,345 千円	係長 0.40 人 職員 0.40 人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	九州厚生年金病院跡地等(約3.3ha)に、図書館、ホール、広場・緑地など、文化・生涯学習・コミュニティ活動を通して人が交流する場や、快適に憩える都市空間をPFI事業にて整備することにより、副都心に相応しい都市機能の充実と地域の回遊性の向上を図り、黒崎の活気と賑わいを再生させます。	成果実績	予定どおり7月に施設がオープンし、多くの市民に利用されていることから、事業が黒崎のにぎわいづくりについて順調に貢献していると判断しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	黒崎の賑わいが感じられる状態		黒崎の賑わいが感じられる状態を目指します	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	ホール開設によってもたらされる「黒崎の賑わいが感じられる状態」を数値で表すことは、現在は困難です。 (最終目標と目標年度) 24年度以降黒崎の賑わいを感ぜられる状態			%		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	平成24年度は、平成24年7月のオープンを目指して、PFI事業により図書館、ホール、広場などの建設工事を着実に進め、施設を完成させます。オープン後は、指定管理者による施設の維持管理・運営を実施していきます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「文化・交流拠点地区」の整備	設計・工事着手等	施設の完成	—	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	平成24年7月予定の図書館、ホール、広場などのオープンに向け、PFI事業による工事を着実に進め、施設を完成させます。			%		
	ホール施設の維持管理・運営の実施		維持管理・運営の開始	—	やや遅れ 遅れ	順調
オープン後、ホール施設の維持管理・運営を実施します。			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	本事業は、中心市街地活性化基本計画(平成20~24年度)の主要事業であり、工程どおり計画的で着実な施設整備を進めてきた結果、平成24年7月に施設がオープンしました。オープン後は、順調にホール施設の維持管理・運営を実施しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	民間資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用したPFI事業(BTO方式)により事業を進めます。本事業については、従来の公共事業発注方式に比べ、「効率性(施設整備と維持管理運営の一体による使いやすく運営しやすい施設)」や「経済性(性能発注・一括発注による事業費の削減、事業期間内における財政負担の平準化など)」の面で効果が見込まれます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	漫画ミュージアム
課長名	川副

事業名	漫画ミュージアム普及事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ⑤	
事業概要	漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人
	73,994 千円	62,000 千円			46,500 千円	係長 2.00 人 職員 2.00 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州ゆかりの漫画家やその作品を地域の重要な資源として活用し、様々な漫画の魅力を幅広い世代に伝え、漫画文化の普及を図ります。			成果実績	企画展5回、ワークショップ28回開催しました。入館者数の確保に貢献しました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	来館者年間10万人	-	66,666 人	66,838		
	漫画ミュージアムは平成24年8月に開館。年間10万人の来館者を目指し、小倉駅新幹線口のにぎわいづくりに寄与します。(目標は数値は平成24年8月～平成25年3月の8ヶ月分の目標数値)			100.3 %	やや遅れ 遅れ	順調
	(最終目標と目標年度) 漫画文化の普及・平成24年度			%		

活動計画	魅力的な企画展やワークショップ、イベントなどを開催し、目標入館者の確保に努めます。			活動実績	【企画展】夢と冒険の漫画ワールド展(H24.8.3～10.21)、ルパン三世展(H24.11.3～12.28)、海洋堂フィギュア展(H25.1.1.12～2.24)、アズと人気絵師展(H25.3.2～3.10)、少女漫画の世界展(H25.3.20～5.19) 【ワークショップ】漫画体験17回、漫画教室14回、海洋堂フィギュア展ワークショップ16回	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展の開催回数	-	4 回	5 回		
	北九州市ではこれまであまり目にする事がなかった漫画やアニメなど、魅力ある企画展を開催することにより、集客を図ります。			125.0 %	やや遅れ 遅れ	大変順調
	ワークショップの開催回数		32 回	47 回		
	漫画文化に親しみ、将来の漫画家を目指す人材を育てるため、漫画の描き方などを教える漫画教室や漫画等に関連したワークショップを開催します。(月4回程度を予定)			146.9 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	漫画文化の普及を図るため、企画展やワークショップを多数開催しました。企画展やワークショップの内容によって、様々な年齢・性別の方にご参加いただき、幅広い層への漫画文化の普及が図れていると考えています。また、年間10万人を達成するペースで来館者も増加していることから、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ワークショップの開催には漫画ミュージアムサポーターなどの協力により、人件費の削減を図っています。また、イベント実施にあたっては、あるあるCityや他機関と共同で開催するなど、低コストでの実現に力を入れています。民間活力導入に関しては、貴重資料の取り扱いの観点から困難と思われます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	北九っ子！パワーアップ大作戦				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	子どもに体を動かす楽しさを感じさせ、運動に親しむ習慣を身につけさせるため、学校体育以外の地域・家庭の中で、外遊びや運動に親しむ機会を提供し、運動習慣の定着や体力の向上を図る。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他
						()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額	課長 0.02 人
	4,893 千円	5,858 千円			5,630 千円	係長 0.24 人 職員 0.40 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	全国体力・運動能力等調査において、本市の小・中学生の平均は多くの種目で全国平均を下回りました。その原因として、子どもたちが活動する場所や機会の減少、保護者の運動・健康の重要性の認識不足があげられます。また小学校高学年から、運動する子としない子が二極化する傾向にあります。そこで、子どもたちが早期から運動に親しむ習慣を身につけるきっかけづくりと、保護者への啓発に重点を置いて事業を展開し、子どもの体力向上を図るものです。	成果実績	成果状況は下記のとおりです。
----	---------------------	---	------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		事業実施後の追跡アンケートによる改善項目 「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ」実施1ヶ月後アンケート(運動の回数が増えたか？食育料理教室で作った料理を家庭でも作ってみたか？等)の抜粋8項目について、参加者の50%以上が改善したと回答した項目の数。 (最終目標と目標年度)H25 5項目	4 項目	4 項目	6 項目 150.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
(最終目標と目標年度)				%		

活動計画	H23年度の参加者から得られたアンケート結果を反映し、H24年度事業に活用していきます。また、運動しない子どもや運動嫌いな子どもとその保護者に対し、いかにアプローチしていくかを重視し、そのために運動プログラムの構成について教育委員会指導指導二課(指導主事)と、子どもの発達段階に応じた正しい食育指導を行うために子ども家庭局子育て支援課(母子栄養指導担当係長)と連携して事業を進めていくこととし、子どもの運動習慣の定着や体力の向上について、幅広い視点から取り組んでいきます。	活動実績				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズの実施回数 未就学児の子どもを対象に、体力向上・健全育成のためのきっかけづくりを行うとともに保護者に対しては、食育を通して子育ての啓発を行っていく「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ(委託事業)」を実施します。 ジュニアスポーツ体験教室の実施回数 小学校低学年の児童を対象に、体を動かすことの楽しさを体験させ、生涯を通じて運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う「ジュニアスポーツ体験教室(委託事業)」を実施します。	11 回 140 回	8 回 140 回	8 回 100.0 % 140 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果指標として、事業実施1ヶ月後のアンケート結果で、参加者の50%以上が「改善した」とする項目数を4項目としました(8項目中)。平成24年度は、「子どもの運動時間が増えた」、「また、参加したい」など、目標を上回る6項目について、良好な結果を得ました。これは実施プログラムに工夫や改良を重ね、本事業の趣旨が参加者に浸透したことにより、特に親が運動や食事の大切さを理解し、その後のライフスタイルに変化が見られたことによるものと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ」の委託事業者は、市内の総合型スポーツクラブやNPO法人の中から企画コンペにより選定しています。提案プログラムの内容だけでなく実施回数や費用対効果の項目を採点基準に盛り込んでおり低コストで有効な教室が実施できています。また「ジュニアスポーツ体験教室」は、各種スポーツ指導に高いノウハウを有した各区の総合型スポーツクラブに委託しています。各クラブが拠点としているスポーツ施設や学校施設を利用することで、低コストで有効な教室が実施できています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	市民体育祭				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額 11,346 千円	25年度当初予算額 9,000 千円	(事業費備考)	目安の金額 4,650 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市内各所で多くの市民がスポーツに取り組んでおり、活動の成果を確認したり、同じ競技をしている人たちとの交流を進めています。市民参加型のスポーツイベントを開催し、多くの市民に参加いただくことで、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたりスポーツに取り組み、健康で充実した生活を送ろうとする気持ちを高めることができます。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民体育祭参加者数	56,214 人	56,000 人	57,241 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツへの取組状況が表れている同スポーツイベントへの参加者数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに63,000人			102.2 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	市主催のスポーツイベントの参加者数が増加するよう、競技団体へ市民が参加しやすい内容になるよう協力の依頼を行います。	活動実績	活動状況は下記のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民体育祭競技数	72 種目	93 種目	93 種目	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	多くの市民がイベントに参加できるよう競技団体等の協力の下、競技数の確保・増加を行います。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	活動の状況は競技数が目標に達成したことなどから着実に事業が進められ順調に推移していると判断しました。また、成果の状況につきましても目標を超える参加者があったことから概ね順調に推移していると判断しました。 本事業は市を代表するスポーツイベントであり、多くの市民にも参加いただいているなど「誰もが気軽にスポーツに楽しめる環境づくりを進めるには欠かせない事業であると考えます。しかしながら、「経済性」「効率性」の観点から本事業の効果や趣旨は残しつつ、効率的な運営と低コスト化を図るよう、「レディーススポーツフェスティバル」と本事業を統合しました。統合により開会式や実行委員会などを一本化し、コストの削減が出来ます。
-----------	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	地域スポーツ振興事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	市民への生涯スポーツ振興・普及のため、各区においてスポーツ教室、交流大会、ニュースポーツ体験会などを開催します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (スポーツ推進委員との協働)
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
		3,334 千円	21,288 千円			990 千円

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施します。また、親子のコミュニケーションづくりに着目し、家族単位の地域交流を促進するファミリースポーツ推進事業を展開し、市民のスポーツ実施率の向上を図ります。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,531 人	12,600 人	12,753 人			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	本事業予算は、各区におけるスポーツ大会開催に係る審判謝礼金や用具代など大会運営を支える経費です。大会参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)平成25年度末までに15,000人			101.2 %			
	(最終目標と目標年度)			%	順調		

活動計画	各区において、地域スポーツの普及振興を図るため各種スポーツの開催やニュースポーツの用具、備品整備を図ります。	活動実績	活動状況は下記のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	各区におけるスポーツ行事の開催数	103 回	100 回	102 回		
	市民の機会創出を図るため、各区において行われる各種スポーツ大会開催数の確保・増加を図ります。			102.0 %		
				%	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。成果の状況については一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの人数が参加し概ね順調に推移しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は施策に対する有効性も高く「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進していく上で重要な事業であると考えています。本事業におけるスポーツ大会は市民主体による企画・運営に基づくものであり、経費の支出も審判謝礼・備品代など必要最小限の範囲で行われています。今後とも事業の「経済性」「効率性」の向上へ向けた視点を持ちつつ、目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブです。多世代、多種目、多志向を特徴とし地域住民等により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものです。この果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組みます。				事業手法 ()	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	3,683 千円	4,459 千円		2,325 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブです。多世代、多種目、多志向を特徴とし地域住民により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものです。本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上のためにも、果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの会員数拡大を目指します。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	総合型地域スポーツクラブの会員数					
	スポーツをする人、支える人など市民のスポーツへの関わりが表れている総合型地域スポーツクラブの会員数を成果指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成32年度までに4,000人	2,059 人	2,100 人	2,111 人 100.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	総合型地域スポーツクラブの会員数増加のためには、市民にとってクラブへの入会を魅力あるものにする必要があります。広報・PR強化のみではなくクラブの質の向上を図るため、交流事業や勉強会を定期的に開催し、指導者の充実やクラブを円滑・安定的に運営できる人材の育成等に努めます。			活動実績	下記の活動指標のとおりです	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	総合型地域スポーツクラブのPR強化及び交流事業等の開催					
	「総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」を通じて、交流行事や勉強会を開催します。	—	交流行事や勉強会の定期的な開催	— %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。また、成果の状況につきましても昨年度より会員数が増加していることから概ね順調に推移していると判断しました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は施策に対する有効性も高く、地域住民が出し合う会費や寄附などにより自主的に運営される総合型地域スポーツクラブを支援することは、「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を効率的に推進していく上で重要な事業であると考えています。今後、クラブの運営・事業にスポーツ推進委員などが多く参加できる仕組みづくりを検討することなどにより、地域の活動促進及び経費節減を図ります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	国際大会・全国大会等スポーツ開催				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ②	
事業概要	市内において国際大会・全国規模の大会の開催を行い、多くの市民にスポーツに関心を高め、「みる」スポーツのニーズを引き出し、スポーツを取り組むきっかけをつくります。また、高度なレベルの技術などを目にする事で、個々の競技力の向上につながります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	5,100 千円	4,340 千円		4,325 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	実践するスポーツだけでなく、見るスポーツも多くの市民が望んでいます。競技レベルの高い大会を開催したり、誘致したりすることは、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツに取り組むきっかけにもなります。また、高度な技術などを目にする事で、個々の競技力向上にもなり、まちの活性化につながります。	成果実績	成果状況は下記の通りです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	国際・全国大会等の開催数	17 回	19 回	21 回	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市内において国際・全国規模大会を開催することで、多くの市民にスポーツに関心をもちスポーツに取り組むきっかけづくりを行います。加えて高度な技術に触れることによる競技力の向上やその集客力によって地域の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度)H25 21回			110.5 %		
	大型スポーツイベント(自主事業)の参加人数	4,895 人	4,800 人	4,864 人	やや遅れ 遅れ	順調
門司港レトロマラソン及び西日本少年柔道大会を開催し、健康の増進、競技力向上、集客による地域の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度)H25 3,000人	101.3 %					

活動計画	国際大会などの誘致活動や自主事業であるスポーツイベントを実施します。			活動実績	他の部署との協力により、自主事業の参加規制を上限2,800人から3,000人と上げました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	国際大会など誘致活動の実施	—	誘致活動の実施	—	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	大会開催のインセンティブを宣伝し、各関係団体と連携して誘致活動を行います。					
	自主事業の実施	1 件	関係機関との連絡調整	1 件	やや遅れ 遅れ	順調
自主事業実施に伴い、関係機関との連絡調整を行います。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	大型スポーツイベントの参加人数も国際・全国大会の開催数共に、目標を達成しました。概ね順調な実績を挙げています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	(公財)北九州市体育協会や(財)西日本産業貿易コンベンション協会など関係機関との協力を一層強化しながら、高い成果を挙げるとともに、今後は、全体のコストと他事業の関係性などを把握し、事業の整理や統合なども検討する必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	ギラヴァンツ北九州支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ②	
事業概要	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、遠征費やホームゲーム開催経費の一部を補助しています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	60,000 千円	60,000 千円		2,325 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」が、市民の一体感を高め、誇りや愛着を持てるようなシンボルとなり、真に市民に愛されるチームとなることを目的とします。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	ギラヴァンツ北九州の市民認知度			89 %			大変順調 順調
	チームの認知度は愛着感を高めるために重要であると考え設定しました。 (最終目標と目標年度)平成28年度90%以上	88 %	90 %	99.3 %	やや遅れ 遅れ	やや遅れ	
	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数			3,346 人			
より多くの市民に実際の試合を見ていただくことがチームの認知度や愛着感を高めるために重要であると考え設定しました。最終目標はJ2の平均以上としました。 (最終目標と目標年度)平成28年度6500人以上(24年度J2平均5805人以上)	4,051 人	4,500 人	74.4 %				

活動計画	まずは一度、実際に観戦し、プロの試合の迫力、応援の一体感を体験し、ギラヴァンツ北九州の認知度向上や愛着を感じていただけるよう。市民招待事業等を実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民招待事業等によるギラヴァンツ北九州ホームゲームの観戦者数			18,840		
	ギラヴァンツ北九州のホームゲームを「みる」機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。	18,144 人	20,000 人	94.2 %	やや遅れ 遅れ	順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	日曜日のナイター開催が多くなった影響で、J2リーグ全体において来場者数が伸び悩み、前年実績を下回ることとなりました。そうした状況の中でも、来場者増に向けた広報活動は、自治総連合会、クラブ、市、教育委員会等が一体となって取り組みました。その結果、市民招待事業などによる観戦者数は前年度を超える成果となりました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業自体は、補助金という性質上、経済性や効率性を求めづらいですが、チームには、補助金がホームゲームの集客につながる用途となるよう働きかけています。また「北九州」の名を冠したチームがホームだけでなくアウェイでも試合を行うことや、マスコミへの露出による本市のイメージアップ・PR効果は高いと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業名	ホームタウン推進事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ②	
事業概要	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイヤーズ」「福岡ソフトバンクホークス」の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	62,328 千円	64,450 千円			3,950 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民の一体感の醸成や青少年の健全育成等を目的として、一流のプロスポーツ観戦の「みる」スポーツの機会を市民に提供します。		成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	スポーツ観戦率				大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	競技レベルの高いプロスポーツの試合を「みる」機会の充実を図る指標として欠かせないため設定しました。最終目標は、北九州市スポーツ振興計画の目標である40%以上としました。 (最終目標と目標年度)平成32年度までに40%以上	21 %	25 %	19 %		
				77.6 %	やや遅れ	やや遅れ
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	今年度は、本市をホームタウンとする「ギラヴァンツ北九州」をはじめ、準ホームタウンとする「福岡ソフトバンクホークス」や「堺プレイヤーズ」等のスポーツチームの試合観戦事業等を実施します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民招待事業等によるギラヴァンツ北九州ホームゲームの観戦者数				大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ギラヴァンツ北九州のホームゲームを「みる」機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。	18,144 人	20,000 人	18,840 人		
	ソフトバンクホークス・堺プレイヤーズ親子招待事業による観戦者数				94.2 %	やや遅れ 遅れ
親子を対象に、本市を準ホームタウンとする両チームの試合観戦機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。	1,975 人	2,000 人	970 人			
				48.5 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	市政だより等を通じた積極的な広報の結果、応募数は非常に多く順調です。23年度より市民招待事業をサッカーだけでなく、野球、バレーボールにも拡充しましたが、いずれも市民から好評を得ています。 成果について、ギラヴァンツ北九州の招待試合は昨年実績を上回りましたが、親子招待事業のソフトバンクホークスの試合が雨天中止により昨年を下回ったため、2つの活動実績を合わせると90%の達成率となっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本市でのプロスポーツの開催は、市民がレベルの高いスポーツに触れる機会の創出のみならず、経済効果やシティプロモーション効果も望めます。 本事業は、市民向け事業でありながら、一定数の観客の確保も担保することから、主催者が本市で開催するインセンティブにもなっています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	村上

事業名	新球場整備事業				施策番号 Ⅲ - 2 - (3) - ③		
	市民に夢と感動を与え、豊かで活力ある北九州市の創出につながるサッカーやラグビーなどのハイレベルな試合や、大規模なコンサートなどを開催できる施設として、新球場を整備するものです。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (PFI事業)		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 25年度の当初予算額は、前年度からの繰越分。	人件費	目安の金額	課長 1.00人	(人件費備考)
	36,743 千円	38,255 千円			29,000 千円	係長 1.00人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民に夢と感動を与え、豊かで活力ある北九州市の創出につながるサッカーやラグビーなどのハイレベルな試合や、大規模なコンサートなどを開催できる施設として、新球場を整備します。			成果実績	当事業の成果を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、28年度以降、新球場が、市民に夢と感動を与え、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設と考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現		市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	「市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現」を数値で表すことは困難であると考えています。代替の指標として、「見るスポーツ」の機会提供の拡充や「Jリーグ観戦者数の増加」を検討しています。 (最終目標と目標年度)H28年度以降、市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現			— %				
						やや遅れ	順調	
(最終目標と目標年度)					遅れ			

活動計画	H21年度から事業を開始、H22年度には基本方針を公表し、以後、市民への説明会や意見交換会を継続的に実施してきました。H24年度は、H23年度から引き続き、大規模事業の公共事業評価(事前評価1)を実施することとしています。また、これまでの検討を基に、基本方針をより具体化した整備方針を策定する予定です。なお、本事業については、まだ構想段階であるため、活動指標に対する目標の設定は行いません。	活動実績	平成24年度は、市民への説明・意見交換会に取り組みました。 また、これまでの検討を踏まえ、平成24年7月に新球場の事業概要やコンセプト、事業手法などをとりまとめた整備方針を公表しました。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	新球場整備事業			—	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	概ね5年後の完成に向け、事業の進捗率を指標として設定しました。 (本事業については、まだ構想段階であるため、活動指標に対する目標の設定は行いません。)			— %				
						やや遅れ	順調	
					遅れ			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況については、事業が予定通りに進んでいるため、順調としました。 成果の状況については、毎年度測定することが困難です。市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現に向け、市民への説明会や意見交換会を継続的に実施することで市民の理解を図り、さらに、市民を始め、公共事業評価に関する検討会議や有識者による検討会の意見について、事業計画への反映を検討するなど、目的達成に向けて丁寧に事業を進めていることから、順調としました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点	事業計画について、「効率的・経済的な整備手法」や「コスト削減の工夫」、「施設の有効活用」などに十分留意して策定することとしています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	喜洲

事業名	戸畑D街区スポーツ施設整備事業				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (3) - ③	
事業概要	戸畑区内に点在するスポーツ施設を旧浅生小学校等跡地に集約整備します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	28,064 千円	165,000 千円			17,200 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	戸畑区役所周辺地区内のD街区において、戸畑区内に点在し老朽化したスポーツ施設を集約し、市のスポーツの拠点として体育館、武道場、テニスコート、室内温水プールなどを整備します。これにより設の効率的な運営を進めるとともに、スポーツ環境の充実を目指し、市民の健康増進や地域の活性化を図っていきます。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、28年度以降、市民のスポーツ環境の充実を目指します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	本市のスポーツ環境の充実	—	—	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	「本市のスポーツ環境の充実」を数値で表すことは、現在は困難だと考えていますが、代替の指標として、「新旧施設の年間利用者数の変化」や「市民意識の変化」など、検討を行っています。 (最終目標と目標年度)			%		
					やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	平成26年度からの建築工事着手に向けて、平成22年度から地元や関係者に事業について説明会を行っており、概ね理解をいただき、平成24年度は基本設計を策定しました。今年度は、基本設計の概要などについて再度地元関係者に説明を行うとともに、実施設計や建物解体工事などを行う予定です。	活動実績	H24年度は、基本設計を策定しました。また、地元や関係者等(21団体、約480名)への説明会を開催しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	戸畑D街区スポーツ施設整備事業の進捗率	—	—	—	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	(本事業については、いまだ計画段階にあるため、活動指標に対する指標の設定は行っていません。)			%		
					やや遅れ	順調
			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動の状況については、事業がほぼ予定どおりに進んでいるため、順調としました。 H24年度は、22,23年度に引き続き地元関係者21団体約480名に対し説明を行い、事業の推進に理解を得られたため、順調としました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	スポーツ施設を集約化することで、駐車場や会議室、更衣室などの共用化を進め、経済性を図るとともに、太陽光発電などの自然エネルギーを活用することで、維持管理費の節減を目指しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	自治会・町内会活性化事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (1) - ①	
事業概要	自治会と連携しながら、加入率増加や組織・活動の見直し及び人材育成などの新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図るものです。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	7,180 千円	4,806 千円		4,095 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域コミュニティの中心的な役割を担う自治会・町内会の加入促進や活性化などに向けた取り組みを支援することで、地域活動への理解促進を図り、活動への参加者を増やすことにより、住民主体の地域づくりを促進します。			成果実績	成果の実績は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合(意識)			84.1 %			大変順調 順調
	市民意識調査の「活動へ参加している人と機会があれば参加したいと考えている人」の割合を指標とします。高齢等で参加できない人を考慮し、85%を目指しますが、平成25年度までの目標を80%とします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 80%	75.4 %	80.0 %	105.1 %	やや遅れ 遅れ	順調	
	地域づくり活動への参加者の割合(行動)			45.4 %			
市民意識調査の活動への参加率を指標とします。目標は、活動には概ね1世帯から1名が参加していること、1世帯当たりの人員が平均2.3人であることを踏まえて、全人口に対する参加者の割合43%を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 43%	40.5 %	43.0 %	105.6 %				

活動計画	自治会・町内会が行う加入促進活動や人材育成等の取り組みを支援します。			活動実績	目標の11事業に加え、小学生向け啓発パンフレット「自治会ってなあに」を作成しました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報・研修等の事業数			12		
	自治会活動の活性化及び自治会加入促進につながる広報・研修等の事業数	13 回	11 回	109.1 %	やや遅れ 遅れ	順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民意識調査では、地域活動への参加意識や活動への参加者の割合は高まっているものの、自治会加入率の向上には結びついていません。そこで、地域活動への参加意識の高い人等が自治会に加入してもらえるように、引き続きこの事業に取り組み、自治会・町内会の加入促進や活性化を図ります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	自治会活動の活性化や自治会加入促進については、北九州市自治会総連合会と連携し、チラシやポスターによる広報や活動事例集の作成・配布を行っていますが、今後は、民間企業との連携にも取り組んでいきたいと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	地域総括補助金			施策番号		
				Ⅲ - 3 - (1) - ①		
事業概要	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	405,464 千円	421,271 千円			3,825 千円	係長 0.10 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	平成16年度から市の各部署が事業ごとに交付していた補助金を可能な限り一本化し、「地域総括補助金」をまちづくり協議会に交付しています。この補助金の活用により、地域団体の連携・強化を図り、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	120 団体	128 団体	123 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	まちづくり協議会に対して、地域総括補助金の制度導入と継続的な制度活用について働きかけを行います。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 136団体			96.1 %		
	(最終目標と目標年度)			%		やや遅れ

活動計画	本事業は補助事業であり、区のコミュニティ支援課が窓口となり、まちづくり協議会に補助金を交付しています。平成24年度の地域総括補助金を導入しているまちづくり協議会は、123団体となっています。今後も区役所コミュニティ支援課と連携して、導入団体の増加を図っていきたく考えています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	未導入まちづくり協議会への働きかけ	6 団体	8 団体	6 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域総括補助金未導入のまちづくり協議会に対して、区役所コミュニティ支援課が継続的に制度の説明等、働きかけを行います。			75.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		やや遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	地域総括補助金未導入のまちづくり協議会に対し、区役所コミュニティ支援課が導入の働きかけを行っており、導入数は増加しております。しかし、「体制が整わない」等の理由で導入を見送っているまちづくり協議会もあり、引き続き、事業の趣旨や事務等の説明を行います。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	制度の導入により、これまで各部署が行ってきた「補助金交付」に関する事務について、区役所コミュニティ支援課に集約され効率化が図られています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	コミュニティ活動促進事業			施策番号 Ⅲ - 3 - (1) - ①		
	コミュニティ活動の活性化を図るため、まちづくり協議会の活動計画策定や、団体間の情報提供の場づくりを支援することにより、住民主体の地域づくりを進めます。			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	コスト	
事業費	24年度執行額 2,269 千円	25年度当初予算額 4,364 千円	(事業費備考) / 自治会等コミュニティ活動促進事業 人件費		目安の金額 905 千円	課長 0.02 人 係長 0.03 人 職員 0.05 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 自治会やNPO等が開催する研修会や講演会にまちづくりの専門家を派遣するとともに、まちづくり協議会が取り組む活動の計画策定づくりの支援や活動についての情報提供の場づくり等に、住民全体の地域づくりを促進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) まちづくり専門家派遣回数	23年度実績 8 回	24年度目標 25 回	24年度実績 (達成率) 24 回 96.0 %	→ 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	【成果の状況】 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
	(最終目標と目標年度) 平成25年度 30回					
	「地域のちから」報告会参加団体数	121 団体	136 団体	123 団体 90.4 %		
	まちづくり協議会の活動の参考になる事例の紹介等、報告会の内容の充実を図ることにより、参加団体の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)					

活動計画	まちづくり専門家派遣については、まちづくりの専門家登録を行い、利用者が専門家を選択し、地域のニーズにあった講師を派遣する体制を構築するとともに、地域団体やNPO等に事業を活用してもらうために、案内チラシを配布するなど周知、広報活動を実施します。また、情報提供の場として、全てのまちづくり協議会が参加する「地域のちから」報告会を開催します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) まちづくり専門家派遣事業の市民への広報活動件数	23年度実績 732 団体	24年度目標 750	24年度実績 (達成率) 748 99.7 %	→ 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	【活動の状況】 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調
	地域団体やNPO等に事業を活用してもらうために、継続的に案内チラシを配布するなど周知、広報活動を実施します。					
	まちづくり協議会への「地域のちから」報告会参加の働きかけ	136 団体	136	136 100.0 %		
	「地域のちから」報告会について、まちづくり協議会へ区役所コミュニティ支援課と連携し継続的に参加の働きかけを行います。					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成24年度は、前年度から引き続き、制度周知の広報活動を積極的に行った結果、昨年度と比べ、派遣回数を大幅に上回る事ができました。また、地域づくりの活動についての情報交換を行う「地域のちから」も開催しました。参加したまちづくり協議会では、他の地域の取組みを参考に、新たな活動に取り組む気運が高まっています。 地域のニーズに合った講師を派遣する体制を構築したことで利用者の満足度も高く、事業効果も高いと考えています。講師への謝礼金(旅費込み)は3万円、派遣回数は一団体に年3回までとするなど経済性、効率性にも配慮しながら実施していきます。
-----------	---	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	地域カルテづくり事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (1) - ①	
事業概要	地域住民が地域の課題や地域資源を共有し、ワークショップの開催などを通じて地域情報や課題解決のアイデア等を盛り込んだ地域カルテを作成することにより、住民主体の地域づくりを促進します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額 4,862 千円	25年度当初予算額 4,600 千円	(事業費備考) / 新・地域コミュニティ 活性化推進事業	人件費	
					課長 0.05 人 係長 0.15 人 職員 0.20 人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	住民が参加するワークショップの開催により、地域情報や課題解決のアイデア等を盛り込んだ地域カルテを作成する。地域カルテづくりを通じて、住民による地域の課題や地域資源の共有化、課題解決のための処方箋づくりやそれに基づく具体的な取り組みのきっかけづくりを行い、住民主体の地域づくりを促進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	住民主体の新たな地域づくりに向けた体制の確保 まちづくり協議会が主体となって課題解決の活動に取組む件数を指標とします。市はまちづくり協議会の主体的な取組みのきっかけづくりを行います。地域協議会の活動の件数を市の指標とすることは望ましくないと考えています。 (最終目標と目標年度)		まちづくり協議会が主体となって課題解決の活動に取り組む件数	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	まちづくり協議会に事業の趣旨等を説明し、事業実施の働きかけを行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	事業実施についてのまちづくり協議会への働きかけ 地域カルテづくり事業について、まちづくり協議会に対し区役所コミュニティ支援課と連携し継続的に事業実施の働きかけを行います。	7 団体	14 団体	13 団体 92.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市内概ね各区2ヶ所で実施しました。ワークショップ等を開催し、地域課題の解決のための活動プランを企画書としてまとめ、それらを盛り込んだ地域カルテを作成しました。この事業を通して、新たな地域活動への取り組みに向けての気運が高まっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ワークショップ等の実施については、民間のコーディネーターに委託しており、民間の地域づくりのノウハウの導入や経済性・効率性の向上に配慮しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	市民センター管理運営事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (1) - ②	
事業概要	地域づくりの拠点となる市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により、多様な人材を市民センター館長として採用するとともに、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行い、市民センターを拠点とした地域づくりを推進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	1,677,989 千円	1,644,873 千円		24,950 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民センターを拠点とした地域活動を活性化させるため、より多くの地域住民が活動に参加し、コミュニティ活動を活発に行っている状態を目指します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 市民センター1館当たりの利用者数	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民センター1館当たりの年間利用者数。1館当たりの利用者数は、コミュニティ施設としての市民センターの利用度を計る指標となるため、成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度)平成25年度 41千人	40 千人	41 千人	41 千人 100.0 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ)	1,699 千人	1,774 千人	1,962 千人 110.6 %	やや遅れ 遅れ	
	市民センター全館におけるコミュニティ活動参加者の合計人数。市民センターにおける様々な活動のうち、コミュニティ活動の参加人数は地域活動の状況を把握する目安となるため、指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)平成25年度1,774千人					

活動計画	市民センター利用者数増加に向けて、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修を行うとともに、更なる情報発信に努めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 館長及び職員の能力向上を目的とした研修の実施回数	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民センターなどを活用したコミュニティ活動の活性化に向けては、地域の特性を活かした活動の推進や地域で取り込まれていない分野の活動を充実させるコーディネート役となる人材が必要です。これまで各区で実施してきた研修を体系的に整理し、専門分野ごとにバランスよく実施することにより、館長や職員のコーディネート能力の充実を図りま	70 回	70 回	83 回 118.6 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ホームページを毎月1回以上更新している市民センターの館数	128 館	129 館	127 館 98.4 %	やや遅れ 遅れ	
センターの事業や活動などの様々な情報をタイムリーに発信するために、ホームページによる広報活動を充実させます。						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ホームページの更新を毎月行わなかった館は2館ありましたが、館長及び職員の研修は、目標より多く行い、能力向上を図ることができたため、活動は順調としました。また、成果についても、市民センター1館当たりの利用者数、市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数ともに、増加しているため、順調としました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	現在、市民センターは、公募により多様な人材を館長として採用するとともに、まちづくり協議会が雇用した地元の実情を熟知した職員により運営しています。また、清掃業務などの維持管理業務を一括発注したり、さらなる節電に努め、コスト削減に取り組んでいます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	管野

事業名	市民センター整備事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (1) - ②	
事業概要	地域活動の拠点として、未整備校区に市民(サブ)センターを整備するとともに、老朽化対策やバリアフリー化を図るため、計画的な改修を行います。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 市民センター整備事業(単独) 市民センター整備(補助) 新:市民サブセンター整備の合計	人件費	目安の金額	課長 0.70人 係長 0.70人 職員 1.50人
	409,086 千円	426,853 千円			26,300 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	建築後30年以上が経過し老朽化が進んだ市民センターについて、耐震化や外壁の改修、玄関の自動ドア化、エレベーターの設置、洋式トイレの改修、空調機器の更新等の大規模改修を行い、地域の自主的活動推進を図ります。 また、市民サブセンターについては、設置基準に基づいて、地元の協力が得られたところから整備を行い、地域コミュニティ力をより強化した地域活動を促進します。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、整備後は、市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態を目指します。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態。		市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	老朽化が進んだ市民センターにおいては、大規模改修工事により安全性や利便性などが向上するとともに、地域の新たな市民活動拠点として市民サブセンターの整備を行うことで、市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態を目指します。 (最終目標と目標年度)市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態。			- %		
(最終目標と目標年度)				%		順調

活動計画	老朽化が進んだ市民センターについて、施設機能の向上や耐震化を図るため、玄関ドアの自動化、エレベーターの設置などのバリアフリー化を始めとした大規模改修を計画的に行っています。 また、市民サブセンターの設置については、地元の合意が得られたところから順次整備をします。 本年度は、市民センター大規模改修工事2館、設計4館、市民サブセンター改修工事2館、設計1館、空調改修工事2館、外壁改修工事1館の実施を予定しており、年度末までに全ての竣工を目指します。	活動実績	市民センター大規模改修工事2館 市民センター大規模改修設計3館 市民サブセンター改修工事2館 空調改修工事2館 外壁改修工事1館			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民センター整備の進捗状況			96 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本年度中の竣工に向け、事業の進捗状況を指標として設定しました。	90 %	100 %	96.0 %		
				%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	成果の状況については、大規模改修工事後は安全性や利便性などが向上し、市民にとって利用しやすい施設となったため順調としました。 活動の状況については、一部の事業で地元や関係機関との協議に時間を要したため翌年度に持ち越したものの、大部分は予定どおり整備が進んだため順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	公共工事として入札により発注し、効率的な工事を行っているため、コスト縮減の余地は少ないです。老朽化した市民センターの施設機能向上や耐震化を図るための大規模改修を進めており、改修後は利用者にとって安全性や利便性が向上し、施策実現に対する効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業名	つどいの家設置等補助事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (1) - ②	
事業概要	住民が身近に話し合い、相互の交流を深めるつどいの場としての集会所(つどいの家)の設置又は改修に対して補助金を交付することにより、住民主体のまちづくりを推進します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	4,797 千円	5,400 千円		1,595 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	住民が身近に話し合い、相互の交流を深める場を確保するため、自治会等のつどいの家の設置、改修を支援し、住民主体のまちづくりを促進します。	成果実績	住民が安全に活用できる集会所としての機能は確保されたと考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	住民の集会所としての機能の確保 住民が安全に活用できる集会所としての機能が確保されることを指標とします。つどいの家は自治会等が管理運営しており、設置や改修の件数は自治会等の資金力や運営状況に左右されることから指標を数値化することは困難です。 (最終目標と目標年度)		住民の集会所としての機能の確保	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	つどいの家の設置・改修に対する補助を実施します。	活動実績	設置補助1件、改修補助2件実施しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	つどいの家の設置・改修に対する補助 自治会等のつどいの家の設置や改修計画にあわせて補助金を交付します。	3 件		3 件	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	補助金の交付件数は、自治会等の設置・改修計画等に左右されるため、年度によって増減があります。しかし、補助金を交付することで、住民が身近に話し合い、相互に交流を深める集会所としての機能確保の支援は順調にしていると判断しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	住民の身近なコミュニティ施設整備の補助を行うことは、地域活動促進のために有効であり、本事業は今後も現状どおり継続して実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (2) - ①	
事業概要	NPO・ボランティア活動等の市民活動促進のため、市民活動サポートセンターを中心に、市民活動等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業や団体間のネットワークづくりなどの支援を行っています。また、NPO法人の設立の認証や認定事務などを行っています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	15,495 千円	18,055 千円		19,200 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPO法人数(累計)	293 法人	310 法人	305 法人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			98.4 %		
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	20,428 人	20,700 人	21,309 人	やや遅れ 遅れ	順調
これから市民活動に携わりたい市民への情報提供や相談受付を行うとともに、市民活動に取り組む団体の情報交換や交流を支援する市民活動サポートセンターの利用者数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度21,000人	102.9 %					

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、ニーズに即した各種支援策を実施します。NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人設立の認証や認定事務、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業開催、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	講座実施数	3 講座	5 講座	6 講座	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	これから市民活動に携わりたい市民への啓発や、市民活動に取り組む団体の組織や活動を強化するための講座を開催します。			120.0 %		
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	やや遅れ 遅れ	順調
市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	NPO法人数は概ね目標を達成すると共に、市民活動サポートセンター利用者数は目標を達成できたので、順調と判断しました。このことから、活動は有効であると判断します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関窓口の一部として運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPO公益活動支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (2) - ①	
事業概要	NPO活動のさらなる発展に寄与するため、NPO法人や市民活動団体が専門性を十分に発揮して行う意欲的で先進的な取り組みを支援します。また、あらかじめ市が設定したテーマに対して、NPO等から専門性を生かした提案を募集し、提案団体と市が協働して相乗効果を発揮しながら取り組む事業を支援します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	3,940 千円	4,975 千円			4,650 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	NPO法人又は市民活動団体が専門性等を十分に発揮して行う、意欲的かつ先進的な公益活動(地域の課題解決につながる活動や公共の福祉の向上に資する活動など)に対して助成を行うとともに、これらの活動事例を幅広く情報提供することなどを通して、本市におけるNPO活動の更なる発展を図ります。	成果実績	補助の対象となった事業は、いずれも地域課題の解決や地域の活性化に寄与するものであり、公益性が高く団体の専門性や特性が活かされた事業でした。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPO公益活動支援事業補助金の交付件数(累計)	36 件	36 件	42 件	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市内全域を対象とするまちづくり活動、地域課題の解決に繋がる活動、市のイメージアップに寄与する活動に対する補助交付件数(累計)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度に補助事業累計件数が42件			116.7 %		
	成果発表会の参加人数(累計)	80 人	130 人	136 人	やや遅れ 遅れ	順調
活動事例を幅広く情報提供することなどを通して本市におけるNPO活動の更なる発展を図るため、成果発表会への参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度に参加者累計人数が180人			104.6 %			

活動計画	市内全域を対象とするまちづくり活動やイメージアップに寄与する活動等に対する支援を行っていきます。地域に密着した市民活動を促進するまちづくりステップアップ事業と連携しながら、地域密着と市内全域との重層的な支援で市民活動の活性化を促進します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民活動団体に対する補助事業の広報		補助事業の積極的な活用を呼びかける広報活動	%	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内全域を対象とするまちづくり活動等に対する補助と、地域に密着した市民活動を促進するまちづくりステップアップ事業とを連携させながら、その活用を広く市民へお知らせします。					
					やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当該事業は、NPOによる地域課題の解決に向けた専門的で先駆的な実践を伴うものであり、市民福祉の向上に大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化に大きく寄与しています。平成24年度は、6団体6事業に対して補助金を交付しました。補助の対象となった事業は、いずれも公益性が高く、NPOの専門性や先駆性が活かされた事業でした。また、「NPO協働提案モデル事業」では、NPOと市が実際に協働して事業を展開し、課題の解決に取組みました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	地域の事情に精通した団体や、高い専門性を有する団体が、地域課題の解決に取り組んでいるため、効果的かつ効率的な運営となっています。NPOと行政が協働して取り組む「NPO協働提案モデル事業」では、行政が挙げている課題に対して、NPOの専門的・先駆的な発想を導入することで、行政が直接実施することと比べ、より効率的で効果的な成果を得ることができました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	まちづくりステップアップ事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (2) - ①	
事業概要	市民主体のまちづくりを推進するため、市民が主体的に取り組む地域の特性を活かした活動や市民活動団体相互の連携による新たなまちづくり活動を支援します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03 人
	6,141 千円	7,016 千円			1,220 千円	係長 0.05 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民が、地域の特性を活かして取り組む公益的な活動(地域住民の交流の促進に関する活動や子どもの健全育成・子育ての支援に関する事業など)に対して助成を行い、団体相互の連携や、行政等との協働による新たなまちづくりの活動を支援することにより、本市における市民主体のまちづくりを推進します。	成果実績	補助の対象となった事業は、いずれも地域課題の解決や地域の活性化に寄与するものであり、公益性が高く団体の専門性や特性が活かされた事業でした。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民活動団体等に対する補助金の交付件数(累計)	116 件	148 件	148 件	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域に密着した市民活動団体の活動を促進するため、こまめな支援を図る必要があります。市民活動団体に対する累計補助交付件数を評価の指標とし、地元要望とプライオリティの両立を図る補助交付の実施に努めます。 (最終目標と目標年度)25年度に補助事業累計件数が183件			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ	順調
			%	遅れ		

活動計画	市民が主体的に行う地域の課題解決や活性化活動を支援するため、区毎に活動申請を審査し、適切な支援を行っています。また、市内全域を対象とするNPO公益活動支援事業とも連携しながら、地域密着と市内全域との重層的な支援で市民活動の活性化を促進します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民活動団体に対する補助事業実施回数	7 回	7 回	7 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域に密着した市民活動団体の活動を促進するため、こまめな支援を図る必要があります。市内の7区全区で着実に補助事業を募集し、全ての地域で市民活動が活性化されるように努めます。			100.0 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	当該事業は、地域住民相互の交流の促進や地域の活性化など実践を伴うものであり、安全なまちづくり、自然保護、地域イベントなどに大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化に大きく寄与しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	地域の事情に精通した地域団体や、高い専門性を有する市民活動同団体が、直接的に地域課題の解決に取り組んでいるため効果的かつ効率的な運営となっています。また、外部委員を含む審査会において、申請事業の妥当性や効率性を審査するとともに、必要に応じて指導や助言を行うことにより、効率的な運営に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業			施策番号	
				Ⅲ - 3 - (2) - ②	
事業概要	NPO・ボランティア活動等の市民活動促進や、市民活動団体等と行政の協働促進のため、市民活動サポートセンターを中心に、市民活動や協働等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業などの支援を行っています。				事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30 人
	14,613 千円	18,055 千円		19,200 千円	係長 0.60 人 職員 1.30 人
					(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの協働を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPO法人数(累計)	293 法人	310 法人	305 法人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			98.4 %		
	NPO法人との関連事業(委託・補助等)数	148 件	145 件	153 件	やや遅れ 遅れ	順調
市民との協働を進めるために、実際にNPO法人等と関連して行った事業数(委託・補助等)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度160件	105.5 %					

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。			活動実績	活動の状況は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、補助金など、協働に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。			100.0 %		
					やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	市民活動の活性化支援に併せて、市民活動団体と行政の協働が促進されるよう積極的な広報や情報提供を実施しました。このことによりNPO法人との関連事業数が目標値を超えたので成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関窓口の一部として運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPOとの協働によるまちづくり人材育成事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (2) - ②	
事業概要	職員を対象としたNPO等との協働についての理解を浸透させるための研修や、NPO等を対象とした団体相互間の協働や行政・企業との協働に関する理解を深めるための研修を実施します。また、地域課題解決について、多様な主体が参加するワークショップを開催します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	2,327 千円	1,940 千円		人件費	3,650 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、更に質の高い市政運営を進めていくためには、行政とNPO・市民活動団体とのパートナーシップを積極的に推進し、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要となっています。そのため協働を進めるための環境づくりや意識醸成を図ります。	成果実績	成果の状況は以下のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPOとの協働についての研修への参加者数累計	297 人	300 人	430 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民活動に対する理解を促進し、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者(累計)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 400人(25年度)			143.3 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催します。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者と団体関係者との合同セミナーを開催し、協働推進に必要な人材の育成を図ります。	成果実績	成果の状況は以下のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	セミナー開催数	2 回	2 回	2 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	活動指標として、協働理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。			100.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催しました。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者と団体関係者との合同セミナーの開催や、ネットワークやコーディネート力を発揮するための研修などを通して、協働によるまちづくりを進めていくために必要な相互理解が進んだと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	協働によるまちづくりを進めるためには、市民みんなが、力をあわせて取り組むことが必要となります。市役所が仲介することで協働の促進がより進む部分があり、市の関与は有効です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (3) - ①	
事業概要	NPO・ボランティア活動等の市民活動促進や、市民活動団体等と行政の協働促進のため、市民活動サポートセンターを中心に、市民活動や協働等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業などの支援を行っています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	14,613 千円	18,055 千円			19,200 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの協働を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPO法人数(累計)	293 法人	310 法人	305 法人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			98.4 %		
	NPO法人との関連事業(委託・補助等)数	148 件	145 件	153 件	やや遅れ 遅れ	順調
市民との協働を進めるために、実際にNPO法人等と関連して行った事業数(委託・補助等)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度160件	105.5 %					

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、補助金など、協働に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。			100.0 %		
					やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民活動の活性化支援に併せて、市民活動団体と行政の協働が促進されるよう積極的な広報や情報提供を実施しました。このことによりNPO法人との関連事業数が目標値を超えたので成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関窓口の一部として運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (3) - ①	
事業概要	北九州市環境未来都市構想では、「低炭素・省エネルギー社会の実現」「資源循環社会の推進」「少子高齢化社会に対応したまちづくりの推進」などが目標として掲げられています。この目標を達成するため、市民活動団体等の新しい発想や専門性を活かした提案を募集し、提案団体と市が協力して取り組む事業を支援することにより、協働の促進を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	8,546 千円	10,000 千円			4,650 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市環境未来都市計画の目標の達成及び市民活動団体等と市の協働の促進を目指します。	成果実績	補助の対象となった事業はいずれも環境未来都市構想の目標達成に寄与するものであり、先進的で団体の専門性が活かされ、市との協働により相乗効果が発揮された事業でした。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民活動団体等に対する補助金の交付件数(累計)			6 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市環境未来都市計画の目標の達成に向けた事業への補助交付件数を評価の指標とします。	-	5 件	120.0 %		
	(最終目標と目標年度) 26年度に補助事業累計件数が15件					順調

活動計画	上記目的を達成するため、市民活動団体及び行政内部に対して、市民活動団体と市の協働についての理解の浸透を図ります。また、当事業の説明会開催、ホームページ・メールニュース・チラシなどにより、市内の市民活動団体等に広く周知を図ります。	活動実績	平成24年5月に成果発表会、7月・11月に協働研修を実施しました。また、左記のとおり市民活動団体に対して事業の周知を図りました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	成果発表会及び市民活動団体と行政との協働研修の参加人数(累計)			136 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民活動団体と行政との協働についての理解の浸透を図るため、事業実施団体による協働の成功事例についての成果発表会、及び市民活動団体と行政の協働研修を実施します。	-	100 人	136.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	平成24年度は6事業に対して補助金を交付しました。補助の対象となった事業はいずれも環境未来都市計画の掲げる目標達成に寄与するものであり、先進的で団体の専門性や特性が活かされ、市との協働による相乗効果が発揮された事業でしたので、成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	地域の事情に精通した団体や高い専門性を有する団体が事業を実施しているため、効率的な運営となっています。また、市が掲げている目標に対して、専門的・先駆的な発想を導入し、市と協働で事業を実施したため、市が単独で事業を実施するよりも効果的な成果を得ることが出来ました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	コミュニティビジネス推進事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (3) - ①	
事業概要	地域が抱える課題の解決や地域資源を活かしながら、地域活性化をビジネス的な手法によって推進しようとする「コミュニティビジネス」の普及・啓発をはかるためのセミナーを開催します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	361 千円	709 千円			2,325 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	セミナー参加者数	27 人	25 人	33 人			
	コミュニティビジネスの啓発・普及を推進するために実施するセミナーへの参加者数を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 30人(25年度)			132.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調	
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図るため、基本研修や受講生アンケート等を参考にテーマ別研修等を開催します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	セミナー開催数	3 回	3 回	3 回		
	活動指標として、コミュニティビジネスの理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。			100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	セミナー内容は、アンケートや参加者の声などをもとに決定しています。24年度は要望のあったテーマ別研修(3回)を実施しました。なお、参加者はNPOの他、個人での参加もあり、またアンケートでは、今後の活動について前向きな意見も多く寄せられており、コミュニティビジネスの裾野を広げ、促進することに効果があったと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	アンケートによれば、今後の事業展開に役に立つなど受講生が大変満足していることが伺え、効果は高いと考えます。ビジネスの手法を活用しながら地域課題の解決や地域活性化を図るという高い公益性を有しているものの、多くの参加団体は非営利活動団体なので、引き続き市の関与は必要と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	広聴課
課長名	小坪

事業名	出前講演事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (3) - ②	
事業概要	各局別に重要事業等の講演テーマを準備し、市民グループ等の要請に応じ、市の幹部職員が直接出向いて講演を行います。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
	318 千円	493 千円			5,450 千円	係長 0.10 人 職員 0.44 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民に市が重点的に取り組む施策や事業を理解してもらうとともに、直接市民の生の声を聞くことで市民との協働を推進します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	出前講演件数	543 件	480 件	484 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	出前講演の実施件数が増えることによって、市民が市の施策や事業に対する理解を深める機会が増えるため、指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)平成25年度までに500件を目標とします。			100.8 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	より多くの市民に出前講演を利用してもらうため、出前講演テーマ集を作成し、多くの市民が出入りする市民センターや区役所、学校や自治会、さらに商工会議所など複数の団体と関わりのある団体へ配布します。また、市民がより利用し易く、関心を持ってもらうように講演テーマの充実を図ります。	活動実績	活動の状況は下記の通りです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	出前講演のテーマ数	187 テーマ	180 テーマ	189 テーマ	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	講演テーマ数を増やして受講者の選択の幅を広げます。さらに、その時々市民の関心が高いテーマを取り入れるなど、より市民が利用し易いように、関心を持ってもらうように講演テーマを充実させます。			105.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	多くの市民が出入りする市民センターへ、出前講演テーマ集の配布数を増やしたり、受講実績の多い団体などにテーマ集を送付するなど効果的な広報を行いました。前年度より件数が減少したのは、講演依頼の多かった防災関連と新球技場関連の講演が減少したことが原因と考えられますが、今後一層、市民の関心が高いテーマの掘り起こしなど講演テーマの充実に努めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	事務手順の見直しや事務処理の簡素化に努めることによって、市民の利便性向上が図られました。また、テーマ集に講演実施課への問い合わせ情報やテーマ毎の講演内容をより詳細に掲載することによって、市民の要望に対して一層きめ細やかな対応をとることができるようになりました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業			施策番号 Ⅲ - 3 - (3) - ②		
	事業概要 NPO・ボランティア活動等の市民活動促進や、市民活動団体等と行政の協働促進のため、市民活動サポートセンターを中心に、市民活動や協働等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業などの支援を行っています。			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	コスト	
事業費	24年度執行額 14,613 千円	25年度当初予算額 18,055 千円	(事業費備考)		人件費	目安の金額 19,200 千円

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの協働を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPO法人数(累計)	293 法人	310 法人	305 法人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			98.4 %		
	NPO法人との関連事業(委託・補助等)数	148 件	145 件	153 件	やや遅れ 遅れ	順調
市民との協働を進めるために、実際にNPO法人等と関連して行った事業数(委託・補助等)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度160件	105.5 %					

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、補助金など、協働に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。			100.0 %		
					やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民活動の活性化支援に併せて、市民活動団体と行政の協働が促進されるよう積極的な広報や情報提供を実施しました。このことによりNPO法人との関連事業数が目標値を超えたので成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関窓口の一部として運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	NPOとの協働によるまちづくり人材育成事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (3) - ②	
事業概要	職員を対象としたNPO等との協働についての理解を浸透させるための研修や、NPO等を対象とした団体相互間の協働や行政・企業との協働に関する理解を深めるための研修を実施します。また、地域課題解決について、多様な主体が参加するワークショップを開催します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	2,327 千円	1,940 千円		人件費	3,650 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、更に質の高い市政運営を進めていくためには、行政とNPO・市民活動団体とのパートナーシップを積極的に推進し、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要となっています。そのため協働を進めるための環境づくりや意識醸成を図ります。	成果実績	成果の状況は以下のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	297 人	300 人	430 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民活動に対する理解を促進し、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者の累計を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 400人(25年度)			143.3 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催します。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者や団体関係者との合同セミナーを開催し、協働推進に必要な人材の育成を図ります。	成果実績	成果の状況は以下のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	セミナー開催数	2 回	2 回	2 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	活動指標として、協働理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。			100.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催しました。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者や団体関係者との合同セミナーの開催や、ネットワークやコーディネート力を発揮するための研修などを通して、協働によるまちづくりを進めていくために必要な相互理解が進んだと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	協働によるまちづくりを進めるためには、市民みんなが、力をあわせて取り組むことが必要となります。市役所が仲介することで協働の促進がより進む部分があり、市の関与は有効です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	神野

事業名	コミュニティビジネス推進事業				施策番号	
					IV - 2 - (2) - ②	
事業概要	地域が抱える課題の解決や地域資源を活かしながら、地域活性化をビジネス的な手法によって推進しようとする「コミュニティビジネス」の普及・啓発をはかるためのセミナーを開催します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	361 千円	709 千円			2,325 千円	係長 0.10 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	セミナー参加者数	27 人	25 人	33 人			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	コミュニティビジネスの啓発・普及を推進するために実施するセミナーへの参加者数を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 30人(25年度)			132.0 %			
	(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図るため、基本研修や受講生アンケート等を参考にテーマ別研修等を開催します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	セミナー開催数	3 回	3 回	3 回		
	コミュニティビジネスの理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。			100.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	セミナー内容は、アンケートや参加者の声などをもとに決定しています。24年度は要望のあったテーマ別研修(3回)を実施しました。なお、参加者はNPOの他、個人での参加もあり、またアンケートでは、今後の活動について前向きな意見も多く寄せられており、コミュニティビジネスの裾野を広げ、促進することに効果があったと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	アンケートによれば、今後の事業展開に役に立つなど受講生が大変満足していることが伺え、効果は高いと考えます。ビジネスの手法を活用しながら地域課題の解決や地域活性化を図るという高い公益性を有しているものの、多くの参加団体は非営利活動団体なので、引き続き市の関与は必要と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文学館
課長名	米満

事業名	文学館普及研究事業				IV - 4 - (1) - ②	
	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	20,791 千円	20,104 千円			12,625 千円	係長 0.50 人 職員 0.25 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。また、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供し、豊かな感性の育成と教養文化の向上に努めます。	成果実績	親子で楽しむことのできる内容の夏休み企画展を行った結果等により、年間入館者数が、昨年度より約20%増加しました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標
	文学館企画展の入館者数	10,741 人	13,000 人
	本市ゆかりの文学者や全国的に著名な作家などの展覧会のほか、文学に関連する企画展を充実させ、多くの方へ偉人・先人の業績を伝えます。 (最終目標と目標年度)		
		24年度実績 (達成率)	→
	13,349 人 102.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調

活動計画	前年度に引き続き、定期的に魅力ある企画展を開催し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。又、入館者数の増加に努めます。	活動実績	夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」開催等により、入館者数が目標を上回ることができました。
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標
	企画展等の開催回数	4 回	4 回
	文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と文芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催件数を活動の指標としました。		
		24年度実績 (達成率)	→
	4 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	24年度は、夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」開催等により、入館者が増加し(H23 10,741人→H24 13,349人)、目標を達成することができました。 アンケートでは、企画展の内容について非常に高い評価を得ています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	企画展は、毎回違う内容で実施するため、経済性・効率性の向上を図りにくいですが、できる限り最少の費用で最大の効果があげられるよう、毎回検討し企画展を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	松本清張記念館
課長名	木村

事業名	松本清張記念館研究センター・普及事業			施策番号		
				IV - 4 - (1) - ②		
事業概要	【研究センター事業】①松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業を行ないます。②松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を行ないます。③研究誌を発行します。 【普及事業】①企画展を開催します。(年2回) ②講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行ないます。			事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額		(事業費備考)	目安の金額
12,573 千円		14,042 千円		23,250 千円	係長 1.00 人 職員 1.00 人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 松本清張記念館は、松本清張の多岐にわたる創作活動を企画展等で体系的に紹介し、清張とその時代の研究を行なうとともに、市内外に情報発信し、来館者の増加と本市のイメージアップを図ります。	成果実績	年3回の特別企画展開催により、入館者数の確保に貢献しました。また、年2回の松本清張研究会の開催、研究誌の発行などにより市内外への情報発信に努めました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	松本清張記念館の入館者数	49,731 人	60,000 人	51,099 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	平成21年度の生誕100年記念事業で大幅に増加した入館者数が22年度から減少に転じました。この傾向に歯止めをかけるべくさらに魅力ある企画展等を開催し、入館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度)年間入館者数の増加を目標とします 平成25年度			85.2 %		
	企画展入場者の満足度	84 %	85 %	89 %	やや遅れ 遅れ	順調
来館者アンケートのうち企画展の内容についての設問で、「非常に良い」「良い」といった満足度の高い評価の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)90% 平成25年度	104.7 %					

活動計画	開催した企画展の成果を分析し、新規入館者の増加及びリピータ率の向上を図ります。さらに魅力的な企画展・特別展を開催します。	活動実績	H24.1.20～5.6特別企画展「いつもカメラを携えて-松本清張が愛したカメラとその時代-」、H24.8.1～10.31特別企画展「松本清張と映画」、H25.1.19～5.6特別企画展「昭和史発掘への招待」			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展の開催回数	2 回	2 回	3 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展・特別展を開催します。			150.0 %		
						やや遅れ 遅れ
			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成24年度は3回の企画展を開催し、16,867人の入場がありましたが、内容についてもアンケート結果で好評を得ています。また、開館記念講演会、年2回の松本清張研究会の開催など質の高い文化に接する機会を提供しており、活動の状況としては順調と考えます。今後もさらに魅力的な企画展等を開催することが課題と思われます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	委託業務については、コンペや予定価格の見直し等、経済的でより質の高い事業を行えるよう努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	西山

事業名	文化財の保存及び活用事業			施策番号		
				V - 3 - (2) - ③		
事業概要	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を行い、市内の文化財を保護・活用します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人
	162,790 千円	175,170 千円			11,050 千円	係長 0.50 人 職員 0.50 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を行い、市内の文化財を保護・活用します。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	指定・登録文化財の件数	144 件	145 件	149 件			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。 (最終目標と目標年度) 25年度 147件(累計)				102.8 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調	

活動計画	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。	活動実績	国・県と連携して適切に活動しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	指定・登録文化財の保護		国・県と連携して活動します。			
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。				%	
				%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市内に所在する文化財の把握に努め、国・県とも連携して活動するなど、適切な保護に努めました。指定文化財については、適切な保存活動を図れるよう支援しました。24年度に新規に登録された文化財については、国・県とも積極的に連携し調整を図るなどした結果、登録に至り、目標を超える成果が得られました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	文化財公開施設については、地元で組織する文化財保存団体の協力を得て管理しており、経済的な運営が行われています。埋蔵文化財の発掘調査については、開発者と発掘調査機関とで円滑な調整が行われています。概して、経済的で効率的に実施されています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)